

科 目 名	情報・統計処理 (デザイン) Informatics/Statistical Processing	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（１年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	統計学の基本的な概念を学ぶとともに実際の運用の場面での使い方を学ぶ。具体的には基本統計量、記述統計・推測統計の違い、正規分布、検定等とその応用を学習する。 統計の基礎について学び、演習を通じて、情報分析力と統計手法、データ活用の方法を身に着けることを目的とする。		
授業概要	最初に、表計算ソフトの利用法について学ぶ。次に、様々な情報を客観的に記述、解釈するための手段である統計の基礎について学び、その分析手順を修得する。次に、学んだ知識を使い、データ収集と収集したデータの分析を行う。実験的な演習・分析や、地域（岐阜）に関する実際のデータ（政府の公的統計など）の分析を通じて、学んだ知識の定着を行う。最後に、データサイエンスやAIに関する文献調査をし、プレゼンテーションによる発表を行い、お互いの発表を聞くことで、この分野に関する知識を深めるとともに、視野を広げる。 【SDGs：4,9】 【岐阜学関連の授業回：⑪, ⑫, ⑬, ⑭, ⑮】		
授業計画	① ガイダンス、身近にある統計 ② 表計算ソフトの利用方法（関数など） ③ データビジュアライゼーション、データ分析ツール ④ 代表値とばらつき ⑤ クロス集計表、ヒストグラム ⑥ 四分位法、箱ひげ図 ⑦ 相関分析、回帰分析（１） ⑧ 相関分析、回帰分析（２） ⑨ 統計的仮説検定（１） ⑩ 統計的仮説検定（２） ⑪ 統計処理演習（１）データの収集と分析 ⑫ 統計処理演習（２）データの分析とまとめ ⑬ 統計処理演習（３）発表 ⑭ 統計処理演習（４）発表、データサイエンスとAIの関連 ⑮ 統計処理演習（５）発表、総括とまとめ ⑯		
予復習等	【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】講義内容を復習しながら、授業中に指示する課題等に取り組むこと。		
評価方法	平常点１５％、課題および授業内試験８５％		
履修条件	なし。		
教 科 書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参 考 書	『Excelデータ分析の教科書』、日花弘子著、SBクリエイティブ株式会社出版		

科 目 名	色彩学 Color Science	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（１年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担 当 者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、グラフィック、ファッション、インテリアを含む広いデザイン領域において不可欠な色彩に関する知識を学習し、配色計画に関する基礎技能を身につける。色は生活の中でさまざまな役割を果たす。色の見え方についての理解を深めるとともに、色彩検定３級に相当する基本的かつ実践的なカラーコーディネート能力を修得することを目指す。		
授業概要	まず、色の働きや目の仕組みに関する科学的な基礎知識を確認し、色の分類と三属性などの表色系について学んだ後、色によって生じる心理効果と視覚効果および配色とその調和について理解を深める。また、ファッションとインテリアを中心とした実際のデザインにおけるカラーコーディネートの方法と色彩心理について学習する。配色技法など講義形式での理解が困難な内容に関しては演習型の課題を補助的に使用し、理論と実践の両面からの学習形態をとる。 【SDGs：9, 12】		
授業計画	① ガイダンス：色のはたらき ② 西洋の色彩と文化 ③ 日本の色彩と文化 ④ 光と色：色はなぜ見えるのか？／眼のしくみ／照明と色の見え方 ⑤ 光と色：混色 ⑥ 色の表示：色の分類と三属性／PCCS ⑦ 色彩心理：色の心理効果／色の視覚効果 ⑧ 色彩調和：配色の基本的な考え方／色相・トーンを手がかりにした配色 ⑨ 色彩調和：色相とトーンを組み合わせた配色／配色の基本的な技法 ⑩ 配色イメージ ⑪ ファッションと色彩：ファッションのカラーコーディネート／心理効果 ⑫ インテリアと色彩：インテリアのカラーコーディネート／心理効果 ⑬ JIS慣用色名 ⑭ 色彩効果の実践学習：配色演習１（ファッション） ⑮ 色彩効果の実践学習：配色演習２（インテリア） ⑯ 自学科学生：定期試験／他学科学生：課題提出		
予復習等	【予習】教科書を事前に読んでおくこと 【復習】授業時に示した演習課題について、指定された期日までに提出すること		
評価方法	【自学科学生の場合】試験・課題：70％，提出物・受講態度：30％ 【他学科学生の場合】レポート・課題：70％，提出物・受講態度：30％		
履修条件	実践学習には、日本色研/新配色カード199aが必要		
教 科 書	「色彩検定公式テキスト３級編」編：色彩検定協会，出版：Ａ・Ｆ・Ｔ企画		
参 考 書	授業内で紹介する		

科 目 名	美術・デザイン史 History of Art and Design	単 位 数	2
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	必選区分	選択
担 当 者	鳥羽 都子	科目区分	講義
担 当 者	鳥羽 都子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	古代から現代までの美術・デザインの歴史について学ぶ。本講義では時系列で、各時代の代表的な美術・デザインの様式や作家・デザイナーの作品を紹介・解説する。国や時代ごとの表現やテーマを知ること、作品、技法、思想が生まれた土地や歴史にも関心を向け、表現・ものづくりとの関連への理解を深める。 到達目標は、学生が各時代の代表的な作品やプロダクトについての知識・関心を身に付け、現代社会に引き付けて考え、自身の創作に生かす基礎を養うことである。		
授業概要	講義では、画像等を映写し、各時代的美術品やプロダクト、画家やデザイナーなどの制作物を紹介し、地域・社会的背景や相互影響などを解説する。補足資料を配布する。 各回最後には、コメントシートの記入時間を設け、復習・理解促進を行う。質問等は随時受付、共に鑑賞や考察を行う。最終回の筆記試験の他、関連展覧会等の鑑賞を推奨（市内の美術館の見学会を検討）し、1回程度のレポート課題を予定している。 【担当者の実務経験：美術館、アートセンター、出版社で研究・企画・編集の経験あり。】 【SDGs：12】		
授業計画	① イントロダクション、美術の起源、古代エジプト、中国 ② 紀元前-10世紀 ギリシャ、古代ローマ、ビザンティン ③ 12-13世紀 ゴシック、ロマネスク、中世ヨーロッパ ④ 14-15世紀 ルネサンス（1） ⑤ 16 - 17世紀 バロック、東洋の美術 ⑥ 18世紀中葉 ロココ、新古典主義、写実主義、レポート課題 ⑦ 18世紀末 新古典主義、ロマン主義、産業革命、アーツ&クラフツ運動 ⑧ 19世紀 アール・ヌーヴォー、ジャポニズム、分離派 ⑨ 19-20世紀 象徴主義、印象主義、ドイツ表現主義 ⑩ 20世紀 エコール・ド・パリ、キュビズム、パウハウス ⑪ 20世紀 アールデコ、機能主義、シュルレアリスム、抽象表現、ポップアート ⑫ 20世紀 第二次世界大戦後のデザイン（北欧、独、仏） ⑬ 20世紀 第二次世界大戦後の美術 ⑭ 21世紀 現代の美術とデザイン（1） ⑮ 21世紀 現代の美術とデザイン（2） ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】参考書の該当箇所の精読、関連展覧会等の鑑賞、関連画像の検索 【復習】配布資料の読み直し、参考書の該当箇所の精読、関連画像の検索		
評価方法	出席状況及び授業態度30%、レポート30%、定期試験40%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	美術出版社『増補新装 カラー版 西洋美術史』、美術出版社『増補新装 カラー版 世界デザイン史』、中央公論社『世界美術史』		

科 目 名	ファッションデザイン概論 Introduction to Fashion Design	単 位 数	2
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）【他学科専門科目】	必選区分	必修
担 当 者	柴田 佐和子	科目区分	講義
担 当 者	柴田 佐和子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ファッションデザインとは何か。ファッションデザインにおける意義・重要性・役割とは何かを考え、それらがもたらす影響について考える。また、人と衣服、社会とファッションの関わりをデザインの視点から考え、時代の変遷とともに変容していったデザインの位置づけ、消費社会の特徴やデザインの価値を理解することを到達目標とする。		
授業概要	ファッションをデザインするうえで必要となる、造形的なデザイン要素について理解し、それらの組み合わせによるデザイン構成を理解することで、適切な素材、色彩、形態を組み合わせデザインするための知識を学ぶ。また、社会、文化、産業、流行とファッションのかかわりについて様々な視点から捉え理解を深める。その他にも、近代ファッションの変遷と時代に影響を与えたデザインや現代社会においてファッションをデザインをする上で考慮すべき事項を取り上げ解説する。 【SDGs：9, 12】		
授業計画	① なぜ衣服を着るのか 衣服の意義・役割、デザインの定義・分類 ② ファッションデザインの要素・役割 ③ 形態の見え方と捉え方 ④ カラーコーディネーション ⑤ 素材(色、柄、テクスチャー) ⑥ デザインの構成 ⑦ デザインの展開 ⑧ ファッションと社会・文化の関わり ⑨ ファッションと流行の関わり ⑩ ファッション産業におけるデザインの役割 ⑪ ユニバーサルデザイン、サステイナブルデザイン ⑫ 近代ファッションの歩み(1) 身体性とデザイン ⑬ 近代ファッションの歩み(2) 産業とデザイン ⑭ 近代ファッションの歩み(3) 構成とデザイン ⑮ 近代ファッションの歩み(4) アートとデザイン		
予復習等	【予習】教科書・参考書の該当箇所の精読など。 【復習】教科書、配布資料の読み直し、提示された課題を期限までに提出する。		
評価方法	【自科学学生の場合】出席状況・受講態度30%、レポート・提出物70% 【他科学学生の場合】出席状況・受講態度30%、レポート・提出物70%		
履修条件	衣料管理士必修。		
教科書	文化ファッション大系『服飾デザイン』／出版：文化出版局、配布資料		
参考書	『アパレルデザインの基礎 衣服デザイン・色彩論』／出版：日本衣料管理協会		

科 目 名	建築・インテリア概論 Introduction to Architecture/Interior Design	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（１年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担 当 者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	生活環境の基盤となる建築とは何か、建築家とは何かを考え、家具からインテリア、庭を含めた空間のあり方について考える。建築・インテリアの歴史を学び、現在に至る変遷を理解する。用途別にみた建築の種類を整理し、建築が供給されるシステムから社会的にみた建築を位置づける。家具の種類や素材、構成を学び、建築とインテリア、家具との関わりを考える。		
授業概要	建築・インテリアについて、幅広い観点から考察できるよう様々なテーマを設定する。建築・インテリアの発生から現代に至る歴史を学ぶ。近代以前の建築は共通する特徴で区別される様式に則って建てられた。その様式の特徴と流れを学ぶ。また、現代のインテリアから受ける印象の共通言語として用いられるインテリアスタイルについて、その種類と特徴を把握し、デザイン上の留意点を学ぶ。さらに、建築・インテリアを計画する上で配慮すべきユニバーサルデザインやサステイナブルデザインなどの社会的事項についても取り上げる。また、建築の需要と供給に影響を及ぼす政策を取り上げ、現代社会における建築のあり方について考える。 【SDGs：3, 7, 9, 11, 12, 13, 15】		
授業計画	① 建築・インテリアの歴史（西洋） ② 建築・インテリアの歴史（日本） ③ インテリアスタイル ④ 建築の役割と種類 ⑤ 建築と建築家（１） ⑥ 建築と建築家（２） ⑦ 建築と家具 ⑧ 家具の歴史（１）古代から近代まで ⑨ 家具の歴史（２）近代から現代まで ⑩ 建築・インテリアの色彩計画 ⑪ 建築・インテリアのユニバーサルデザイン ⑫ 建築・インテリアのサステイナブルデザイン ⑬ ストック形成の住宅政策 ⑭ 建築とランドスケープ ⑮ 建築と庭 ⑯ 課題提出		
予復習等	【予習】一部の授業では、事前の下調べを指示する。 【復習】各テーマに対する理解を深めるための復習を行うこと。		
評価方法	【自学科学生の場合】出席状況・授業態度３０％，レポート・提出物７０％ 【他学科学生の場合】出席状況・授業態度３０％，レポート・提出物７０％		
履修条件	なし		
教 科 書	適宜，資料を配布		
参 考 書	適宜，資料を配布		

科 目 名	ヴィジュアルデザイン概論 Introduction to Visual Design	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（１年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担 当 者	宮川 友子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	学生がヴィジュアルデザインの領域における世界観を理解し、古今東西の具体的な事例やその観点、背景を知り、全体的な概要を掴むことを目的とする。その中で、鑑賞・ディスカッション・簡単な演習を通じて、興味・関心を高め、それらをもとに自分らしい考えを持ち、言語化できることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィックデザイン業務の従事経験あり】 ヴィジュアルデザインの分野において、教養となる重要な歴史的事項や、現代のデザイナーとその作品や活動についてを知る。講義の間に簡単な演習も交えながら、視覚的なコミュニケーション力や論理的思考を身につける。アートとデザインの違いやその周辺について理解し、作品や課題の制作、将来における活動に活かせるようにする。毎回の小レポートをふまえたフィードバックにより理解を深める。 【SDGs：9, 12, 16】		
授業計画	① オリエンテーション ② 論理的にものを見ることについて ③ 絵を言葉で説明する ④ 視覚言語と世界のヴィジュアルコミュニケーション ⑤ ピクトグラムや絵文字などについて ⑥ オリンピックのデザイン ⑦ 日本のデザイナー（１） ⑧ 日本のデザイナー（２） ⑨ 世界のデザイン史（１） ⑩ 世界のデザイン史（２） ⑪ デザイン関連図書の紹介と図書館の利用 ⑫ インターネットの歴史 ⑬ ポスター史と世界のポスター展 ⑭ デザインにおけるお金と権利について ⑮ ヴィジュアルデザインと地域とのコミュニケーション ⑯		
予復習等	【予習】日頃から身近なデザインについて、観察したり、好きなものや話題を集めておく。 【復習】毎回の小レポートと授業時に示した課題について指定の時期までに提出すること。		
評価方法	【自学科学生の場合】毎回の小レポート70%、最終レポート20%、出席状況・受講態度10% 【他学科学生の場合】毎回の小レポート70%、最終レポート20%、出席状況・受講態度10%		
履修条件	なし。		
教 科 書	なし。		
参 考 書	授業内で適時紹介する。		

科 目 名	材 料 学 Material Science	単 位 数	2
		必 選 区 分	選択
開講学科	デザイン環境学科（1年前期） 【他学科専門科目】 【岐阜学関連科目】	科目区分	講義
担 当 者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日常生活で幅広く用いられている各種材料について、その種類、特性、用途などについて習得することを目的とする。 金属／無機／有機材料種類や製造工程、性質、用途を理解し、デザインの各分野において各種材料を適切に選択使用し、目的に合ったデザインができるようにすること、環境に配慮した材料選定をできるようにすることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公設試で繊維材料・複合材料に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】 人間は古くから、木、土、鉱物など、そのままの状態では有効活用が難しい各種物質を、熱や化学変化などの力を用いて様々な形態に加工することで、利用価値の高い材料として日常生活に用いてきた。この講義ではデザインの分野で用いられる各種材料を中心に、材料の種類や性質、加工方法などを学ぶ。また、材料に関する知識の応用として、岐阜で生産されている製品に用いられる材料について、その歴史と材料固有の特性を理解する。 【SDGs：9, 12】 【岐阜学関連の授業回：⑩～⑮】		
授業計画	① 材料の分類 ② 材料の性質 ③ 金属材料（1）鉄鋼 ④ 金属材料（2）非鉄金属 ⑤ 無機材料（1）石材・宝石 ⑥ 無機材料（2）セラミックス ⑦ 有機材料（1）天然繊維・木材 ⑧ 有機材料（2）化学繊維・プラスチック ⑨ コンクリートと複合材料 ⑩ 岐阜と材料の関わり ⑪ 岐阜の材料（1）岐阜の金属―関の刃物・刀剣― ⑫ 岐阜の材料（2）岐阜の陶磁器―美濃焼― ⑬ 岐阜の材料（3）岐阜の木材加工―飛騨の木工・大垣の升― ⑭ 岐阜の材料（4）岐阜の繊維製品―岐阜のテキスタイル・美濃和紙― ⑮ 材料と地球環境 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 解説予定の素材や特性について、日常生活での使用形態について確認しておく。 【復習】 毎回配付される資料について、講義中解説した重要項目について復習する。		
評価方法	【自然科学学生の場合】 出席状況・受講態度20％、期末試験80％で、総合判定する 【他科学学生の場合】 出席状況・受講態度20％、レポート課題80％で、総合判定する		
履修条件	なし		
教 科 書	毎回講義内容の概要を記した資料を配布する。		
参 考 書	『わかりやすい材料学の基礎』／菱田博俊／成山堂書店『繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版』／榎本雅穂、古濱裕樹編著／アイケイコーポレーション		

科 目 名	日本建築史 History of Japanese Architecture	単 位 数	2
		必 選 区 分	選択
開講学科	デザイン環境学科（1年前期） 【岐阜学関連科目】	科目区分	講義
担 当 者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	建築の成立と発展過程の歴史を社会や生活と求められる時代の空間、自然 環境、外部との関係を通して理解する。 本講義では、日本建築史を中心に、各時代の建築意匠に注目し、建築の歴史の変遷の流れを把握することを目的とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：建築事務所で住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】 縄文・弥生時代の建築から、時代を追って城郭建築までの日本建築を教科書とスライド用いて解説しながら学んでいく。座学で学んだことを実物をとおして確認するため、近隣の日本建築の見学へ数回赴いて空間体験を行う。見学前は担当者を決めて、見学する建築の下調べをおこない、発表することで情報共有を行う。建築の鑑賞の仕方を身につけることも目的としている。 【SDGs：4・5・11・12・13・15】 【岐阜学関連の授業回：⑩】		
授業計画	① ガイダンス、日本建築の基本構成とその名称 ② 古代 ③ 飛鳥～奈良時代の建築 ④ 古代の都城建築と宮殿建築 ⑤ 神社の成立とその形式 ⑥ 見学 ⑦ 密教建築と浄土教建築 ⑧ 大仏様と禅宗様 ⑨ 見学 ⑩ 寝殿造と書院造 ⑪ 茶室と数寄屋建築 ⑫ 城郭建築 ⑬ 見学 ⑭ 民家 ⑮ レポート講評および復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 見学予定の建物を下調べしておくこと。 【復習】 授業で理解できなかった箇所を文献等で調べておくこと。		
評価方法	【自然科学学生の場合】 出席状況・授業態度30％、レポート・定期試験70％ 【他科学学生の場合】 出席状況・授業態度30％、レポート70％		
履修条件	見学の交通費、入場料は各自負担		
教 科 書	「コンパクト版 建築史 日本・西洋」（彰国社）		
参 考 書	適宜、資料を配布する。		

科 目 名	デザイン環境演習Ⅰ Design and EnvironmentⅠ	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（１年前期）	科目区分	演習
担 当 者	宮川友子・小川直茂	教員区分	学内教員／非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業では、学生がデザイン環境学科のすべての領域の基礎的な学びを体験し、自分の興味・関心に合い学ぶべき領域を見つけることを目的とする。「デザイン環境演習Ⅰ」では「基礎造形」と「グラフィックデザイン」の2分野について学ぶ。その中で、これ以降の学びにおける礎となる基礎的な観察力や、集中力、描画力、そして必要な技術を身につけることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィックデザイン業務の従事経験あり（宮川）、メディア系企業にてグラフィックデザイン／編集デザイン／イラストレーション制作業務の従事経験あり（小川）】 「基礎造形分野」造形表現を形／色彩／構成などの基本的な要素に分解した「造形要素」の考え方を基軸に、各造形要素への理解を段階的に深める授業内容を設定している。アナログ画材を用いた複数の課題制作によって、あらゆる分野の造形活動に通じる造形要素の扱い方を体験的に学習する。〔グラフィックデザイン分野〕グラフィックデザイン分野において最も重要な要素である文字の、エレメントの美しさやレイアウトする際の空間などの基礎的事項について、レタリングなどの演習を通じて学び身につける。 【SDGs：9】		
授業計画	① オリエンテーション ② 〔基礎造形分野〕平行線による構成：疎密と太さによる立体感 ③ 〔基礎造形分野〕平行線による構成：色による透明視 ④ 〔基礎造形分野〕断線・欠線によるネガティブな像の構成 ⑤ 〔基礎造形分野〕漸進変化による構成□ ⑥ 〔基礎造形分野〕同形分割と等量分割 ⑦ 〔基礎造形分野〕同形ユニットによる平面充填 ⑧ 〔基礎造形分野〕基礎造形技法の応用表現 ⑨ 〔グラフィックデザイン分野〕和文フォント 明朝・ゴシック ⑩ 〔グラフィックデザイン分野〕 〃 （中間チェック） ⑪ 〔グラフィックデザイン分野〕欧文フォント ⑫ 〔グラフィックデザイン分野〕 〃 （中間チェック） ⑬ 〔グラフィックデザイン分野〕文字とデザイン 発展課題（1） ⑭ 〔グラフィックデザイン分野〕文字とデザイン 発展課題（2） ⑮ 〔グラフィックデザイン分野〕文字とデザイン 発展課題（3） ⑯		
予復習等	【予習】授業終了時に示した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。たくさんの印刷物を文字を中心に観察する。集める。 【復習】授業時に示した課題について、授業時間外の制作を経て指定の時期までに提出すること。		
評価方法	〔基礎造形分野〕提出作品による評価：100% 〔グラフィックデザイン分野〕提出作品による評価：90%、受講態度による評価：10%		
履修条件	〔基礎造形分野、グラフィックデザイン分野共〕課題制作に必要な用具・材料費は受講生の自己負担とする。□		
教 科 書	〔基礎造形分野〕『あたらしい基礎造形 -造形要素の組み合わせによる造形メソッド-』／著：久保村里正 ほか／出版：文教大学出版事業部〔グラフィックデザイン分野〕なし。		
参 考 書	授業内で紹介する。		

科 目 名	デザイン環境演習Ⅱ Design and EnvironmentⅡ	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（１年前期）	科目区分	演習
担 当 者	福村愛美・加藤祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	デザイン環境学科の領域共通の専門科目の演習として、ファッション領域と建築・インテリア領域の基礎を演習することを目的とする。ファッション領域では、衣服造形の基礎的な知識を学び、衣服製作の技術を実習を通して修得する。建築・インテリア領域では、自ら設計した平面や空間イメージを他者に伝えるため、正確に図示できることが重要である。製図法の基本知識を理解し、図面模写および模型制作を通じてその技術を修得することを目的とする。		
授業概要	ファッション領域：衣服製作に必要な基礎的な知識及び技術を学ぶ。手縫いの基礎や、ミシンの使い方、スカートの製作を通して、衣服の構造や、製作過程を理解する。 建築・インテリア領域：図面模写を通じて、建築物の平面図、立面図に関する講義と演習を行う。また模型制作を通じて、建築物の立体表現についての理解を深める。 【SDGs：11,12】		
授業計画	① ガイダンス ② Aクラス：基礎縫い，Bクラス：平面図（1） ③ Aクラス：スカート製図，Bクラス：平面図（2） ④ Aクラス：スカート印付け・裁断，Bクラス：平面図（3） ⑤ Aクラス：スカートしつけ縫い，Bクラス：立面図（1） ⑥ Aクラス：スカート本縫い（1），Bクラス：模型制作（1） ⑦ Aクラス：スカート本縫い（2），Bクラス：模型制作（2） ⑧ Aクラス：スカート本縫い（3），Bクラス：模型制作（3） ⑨ Aクラス：平面図（1），Bクラス：基礎縫い ⑩ Aクラス：平面図（2），Bクラス：スカート製図 ⑪ Aクラス：平面図（3），Bクラス：スカート印付け・裁断 ⑫ Aクラス：立面図（1），Bクラス：スカートしつけ縫い ⑬ Aクラス：模型制作（1），Bクラス：スカート本縫い（1） ⑭ Aクラス：模型制作（2），Bクラス：スカート本縫い（2） ⑮ Aクラス：模型制作（3），Bクラス：スカート本縫い（3）		
予復習等	【予習】スカートの製作についてプリントで予習する。 【復習】提出締切までに完成するよう、授業外での仕上げ作業を計画的に行う。		
評価方法	出席状況・授業態度20％，提出課題80％		
履修条件	制作に必要な材料費等は各自で負担		
教 科 書	1年後期にID領域を選択予定の学生：学芸出版社「住まいの建築設計製図」今村 仁美著		
参 考 書	授業内で紹介する		

科 目 名	発想トレーニング Idea and Solution	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	講義
担 当 者	奥村 和則	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	学生がデザインを学ぶ上で必要な創造的発想、および、そのプロセスを学び、アイディアの獲得をより効率的に行えることを本授業の目的とする。そのために様々な発想方法を体験し、受講者其々に適した発想法を習得することが到達目標である。個人／グループ、バーバル／ノンバーバルなど異なる発想法に接し、アイディアを創出しやすい時間・環境を模索し続けることで、できるだけ早い時期の習得を目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィック／編集デザイン業務の従事経験あり】 優れたデザインを生み出すには発想力が不可欠であり、また、デザインプロセスのあらゆる局面でも求められている。柔軟に発想する能力は、新しいコンセプトやデザインを生み出し、その価値を創造している。 本講義はクリエイティブな職場で実施されているグループによる発想法から効率的に思考をまとめる個人的収束技法まで幅広く学び、演習を通し基本を体得して、発想力の活性化と実践に役立つ発想法の習得する。 【SDGs：4, 8, 9, 12】		
授業計画	① イントロダクション ② アイデアとデザイン ③ 発散技法（1）－マインドマップ 他 ④ 発散技法（2）－ブレインストーミング 他 ⑤ 発散技法（3）－チェックリスト法 他 ⑥ 収束技法（1）－K J 法 他 ⑦ 収束技法（2）－ストーリー法 他 ⑧ 発想を具現化するトレーニング（1）－紙の折り・切りこみ ⑨ 発想を具現化するトレーニング（2）－展開図 ⑩ 発想法からの展開 素材の可能性（1）－選定 ⑪ 発想法からの展開 素材の可能性（2）－本制作 ⑫ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑬ モデルを用いた発想法（1）－アイディアスケッチ ⑭ モデルを用いた発想法（2）－モックアップ ⑮ モデルを用いた発想法（3）－本制作 ⑯ 総評・まとめ		
予復習等	【予習】デザインにおける先進的取組を可能な範囲で調査を行っておくこと 【復習】提示された課題に取り組み、適宜提出（エスキースにて進捗を報告）すること		
評価方法	出席状況・受講態度30％、提出作品・プレゼンテーションによる評価70％□		
履修条件	ヴィジュアル・情報領域の基礎演習科目として位置づけています。同領域を希望する学生に履修を勧めます（2年前期開講の「パッケージデザイン」の履修条件になる可能性があります）		
教 科 書	なし		
参 考 書	授業内で紹介する		

科 目 名	サステイナブルデザイン Sustainable Desgn	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担 当 者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本は2050年までに脱炭素社会することを目標に掲げている。ものづくりを行うデザイン環境学科の学生として、サステイナブルデザインは避けて通ることができない。私たちはどのようなモノづくりを目指せばよいかを考えるために、現状を把握し、国や世界の取り組み、SDGsから見たものづくりの取り組みを観察する。さらに、ユニバーサルデザインについて基礎的な知識を身につけ、当事者の立場を理解する。		
授業概要	【担当者の実務経験：日・独の建築事務所で住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】 前半に「脱炭素を社会をめざす」にて、地球温暖化の現状を把握し、ものづくりに携わる人の使命を確認する。後半に「大学校舎から学ぶユニバーサルデザイン」ユニバーサルデザインの概要を学んだ後、車椅子・アイマスク体験を行うことで、少しでも当事者の立場になってものごとを捉え考えられる、気づきが得られることを期待する。 フィールドワークや見学では、2コマ連続で、大学の外に出て ることもある。最後に素材としての土に触れて、その可能性を考える。 【SDGs：3・4・5・11・12・13・15】 【岐阜学関連の授業回：⑩】		
授業計画	① ガイダンス ② 地域と環境 SDGsをとおして物事を見てみよう ③ バウビオロジーの視点から見るまちと住環境 ④ ドイツの低炭素都市実現へのとりくみ ⑤ 低炭素都市実現に向けた住宅の使命 ⑥ カーボンニュートラル カーボンオフセットについて ⑦ 林業を理解するワークショップ ⑧ 岐阜のまちを考える ⑨ 見学 ⑩ 見学 ⑪ ユニバーサルデザイン ⑫ 車椅子・アイマスク体験 ⑬ 車椅子・アイマスク体験 ⑭ 素材としての土の可能性 ⑮ 素材としての土の可能性 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。 【復習】 授業で理解できなかった箇所を文献等で調べておくこと。□		
評価方法	出席状況・授業態度30％、レポート・定期試験70％		
履修条件	見学の交通費、入場料は各自負担		
教 科 書	特になし		
参 考 書	適宜資料を配布する。		

科 目 名	ファッションデザイン画 Fashion Illustration	単 位 数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（１年後期）	科目区分	演習
担 当 者	北野 淳子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生がファッションに関わるデザインの基礎を学び、日常生活の中で関連する事物のデザインに着目し、広く社会情勢、経済の動向、アートやユニバーサルデザインなども追究、専門知識と技術を取得し物作りする事で、社会生活における諸課題を創造的に解決する表現方法を実践的な知識と能力を身につける事で人々の生活環境の向上に貢献出来る人材の養成を目指す事を到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：アパレル会社でデザイナーとして業務に従事した経験あり。現役で専門学校での担任業務に従事。】自由な発想のファッションデザインを現実的に物づくりで表現する手段となるファッションデザイン画の基礎を学び、衣服のディテールや素材などそぞれの目的に合う表現方法を取得する。人間の身体プロポーションの動きによる着装の変化の描法演習、画材の特性研究を経て各種コンテストも参加で実践的な経験も授業として実施する。 【SDGs：5, 9, 12】		
授業計画	① 顔 パーツの位置の把握と形の理解 ② 手・脚 形を理解し、靴の描法演習 ③ プロポーション(1) 基本ポーズの作成(正面・横・後) ④ 着装(1) ベーシックアイテムからデザイン性のあるアイテムまでの装着方法 ⑤ 着装(2) 動作による衣服のしわの変化の理解 ⑥ 着装(3) 衣服のシルエットによるしわの変化の理解 ⑦ プロポーション(2) メンズ・キッズのプロポーションの理解とポーズの研究 ⑧ 着彩 各種画材特性の理解と着彩方法の研究 ⑨ 布の表現 (ギャザー・ドレープ・フレアー) ⑩ 素材別表現法(1) 素材の表情を理解し画材との相性を研究 ⑪ 素材別表現法(2) 織り・柄・編地等の描法演習 ⑫ ディテールの研究 (衿・袖・ダーツ・デザイン線) ⑬ アイテム画の基本演習Ⅰ (シャツ・ジャケット・コートなどのトップス) ⑭ アイテム画の基本演習Ⅱ (スカート・パンツ) ⑮ アイテム画Ⅲ (衿・袖・その他のディテール) ⑯ 定期試験 (ポートフォリオ作成)		
予復習等	【予習】次回演習に関する参考資料を調べてデザインを考えておく。		
評価方法	出席状況50％・受講態度30％・定期試験（ポートフォリオ）20％		
履修条件	コンテスト登録料自己負担、材料費一部自己負担		
教 科 書	ファッションデザインテクニック		
参 考 書	文化ファッション大系ファッションデザイン画		

科 目 名	ファッション造形論 Theory of Fashion Making	単 位 数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（１年後期）	科目区分	講義
担 当 者	福村 愛美	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	衣服の設計・生産の過程で必要となる専門知識を習得することを目的とし、以下の4点を到達目標とする。 (1)人体構造と衣服の関連について理解する		
授業概要	デザインの発想から、パターンメイキング、縫製加工、着装までの衣服の設計・生産の過程の中で必要となる、人体形態とパターンに関する基礎知識、パターンとデザイン、デザインに合わせた素材選択および素材に適した縫製方法(使用機器、技術)についての専門知識を習得する。さらにアパレル生産の基礎知識の習得をととして、生活者やアパレル生産者に有益な、美しく快適な着心地を与えるアパレルの本質と合理的な衣生活の実現に向けての衣服に関する科学的理解と式を深める。 【SDGs：12】		
授業計画	① 衣服の美しさ、快適な衣生活とアパレル設計 ② 衣服と人体ー人体の構造、体型、人体計測ー ③ アパレルの種類、シルエットと求められる性能 ④ パターン設計ー人体形態と原型ー ⑤ パターン設計ーデザイン展開ー ⑥ 布地の立体化の技法 ⑦ 布地の立体化と布の力学特性 ⑧ 表地の種類と素材選定ー天然繊維・単繊維素材ー ⑨ 表地の種類と素材選定ー合成繊維・長繊維素材ー ⑩ 表地の種類と素材選定ーニットの特徴と種類ー ⑪ 裏地と芯地の役割と種類、素材選定 ⑫ 既製服の衣料サイズと工業用ボディ ⑬ プロダクトパターン、縫製仕様書の作成 ⑭ 縫製技法ー縫い目、縫い合わせの種類と機器ー ⑮ 縫製上の問題点と、素材・機器の関係 ⑯ 試験		
予復習等	【予習】教科書、参考書を読み次回の授業内容について予習する。 【復習】授業で行った内容について確認を行う。		
評価方法	出席状況・受講態度20％、課題提出20％、期末試験60％		
履修条件	衣料管理士必修		
教 科 書	(一財)日本ファッション教育振興協会 パターンメイキング技術検定試験3級ガイドブック、配布資料		
参 考 書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①服飾造形の基礎(文化出版局)		

科 目 名	ファッション造形演習Ⅰ Fashion MakingⅠ	単 位 数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（１年後期）	科目区分	演習
担 当 者	福村 愛美	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ブラウスの製作を通して、人体上半身体型を把握するとともに、衣服造形に関する基礎的な知識と技術の向上を目的とし、以下の4点を到達目標とする。		
	(1)身頃原型におけるダーツ展開を理解する		
授業概要	身頃原型を作成し、ブラウスを製作する。基本的なデザインや構造を理解し、身頃原型におけるダーツ展開および製図方法を理解した後に、各自の身体にフィットするパターンを作成しする。さらに、デザインに適した素材の選定および扱い方を学び、素材の特性に適した縫製技法を製作を通じて習得する。 【SDGs：12】		
授業計画	①ブラウス(1) 身頃原型の作成、採寸 ②ブラウス(2) 製図(1/4サイズ) ③ブラウス(3) 製図(実物大)、パターンチェック ④ブラウス(4) 印・縫い代つけ ⑤ブラウス(5) 裁断 ⑥ブラウス(6) 仮縫い ⑦ブラウス(7) 試着、パターン修正、芯地貼り ⑧ブラウス(8) 縫製(身頃) ⑨ウール講座②(マテリアルセンター見学および実習) ⑩ブラウス(9) 芯地貼り、縫製(衿) ⑪ブラウス(10) 縫製(衿つけ) ⑫ブラウス(11) 縫製(袖) ⑬ブラウス(12) 縫製(袖つけ) ⑭ブラウス(13) 縫製(ボタンホール、ボタン) ⑮ブラウス(14) 仕上げ ⑯課題作品提出		
予復習等	【予習】教科書、参考書を読み次回の授業内容について予習する。 【復習】授業で行った内容について確認を行い、次の授業に備えて課題を進める。		
評価方法	出席状況・受講態度30％、提出作品・その他提出物70％		
履修条件	製作に必要な材料費(製図用具、生地、副資材等)は受講生の負担とする。		
教 科 書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース(文化出版局)、配布資料		
参 考 書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①服飾造形の基礎(文化出版局)		

科 目 名	ドレーピング Draping	単 位 数	2
		必選区分	FD選択
開講学科	デザイン環境学科（１年後期）	科目区分	演習
担 当 者	堀田 悦子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ドレーピングとは、様々な種類のボディや素材を使ってデザインを形にしたり、シルエットを作る技術である。立体裁断の考え方、人体に適合したシルエット、デザイン線、構造線のとらえ方を学ぶ。基礎となるシルエットの演習を行い、ドレーピングの基本的な技術を習得するとともに、人体の特性と衣服の関係を学び、適正なパターンメイキングができることを目的とする。また、日本ファッション協会振興会パターンメイキング技術検定3級を取得するための知識と技術を身に付ける。		
授業概要	【担当者の実務経験：日本ファッション教育振興協会パターンメイキング技術検定2級3級の実技試験採点の経験あり。アパレル企業でデザイナー、パターンナーとして業務に従事】人間の身体は凸凹の立体であり、平面である布を覆ったとき、どのように形を作れば機能性のある衣服として成り立つかは、人体を観察し、構造原理を理解することが重要である。また、シルエットの構成、量感、フィット感を判断し、ファッション性をプラスすることも必要とされる。この授業では、基本の演習を通して布目の方向、流れ、量感、バランスを捉える感覚を養い、パターンメイキング力の向上とクリエイションのステップに繋げる 【SDGs：4.9.2】		
授業計画	①ドレーピングの準備と基礎 ②ストレートスローパー(1) ③ストレートスローパー(2) ④タイトスローパー(1) ⑤タイトスローパー(2) ⑥ブラウス(1)身頃シェイプ ⑦ブラウス(2)シャツカラー ⑧ブラウス(3)袖作図、袖付け ⑨ダーツ移動(1)バリエーション ⑩ダーツ移動(2)～デザイン線～ ⑪ダーツ移動(3)～折り紙パターン～ ⑫タイトスカート(1) ⑬タイトスカート(2) ⑭フレアースカート(1) ⑮フレアースカート(2) ⑯定期試験		
予復習等	・次の授業で必要となる布の地直しと教科書の該当ページを読んでおくこと。 ・授業内で行った内容の確認を行い、次の授業までに課題を進めておく。		
評価方法	出席状況及び授業態度20％ 提出作品80％		
履修条件	演習に必要な用具は各自の負担とする。		
教 科 書	『文化ファッション大系 アパレル生産講座③立体裁断 基礎編』/文化出版局		
参 考 書	『文化ファッション大系 アパレル生産講座⑤工業パターンメイキング』/文化出版局		

科 目 名	繊維材料学 Fiber Science	単 位 数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担 当 者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ファッション領域で幅広く使用されている繊維材料について、その種類、特性、用途などについて習得することを目的とする。 繊維／糸／布（織物／編み物）の種類や製造プロセス、性質、用途を基本的に理解し、生活デザインの各分野において繊維材料を適切に選択使用できるようにすることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公設試で繊維材料に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】 この講義では、ファッション分野において根幹となる繊維製品を中心に、繊維材料の性質、製造方法、利用分野などを解説する。また材料見本を実際に手にすることにより、各種糸、織物、編物、加工素材の触感、風合いを身近なものとしてとらえ、生活材料の適切で合理的な利用方法を理解する。 【SDGs：9, 12】		
授業計画	① 繊維材料の分類 ② 天然高分子材料（1） 植物繊維 ③ 天然高分子材料（2） 動物繊維 ④ 合成高分子材料（1） 再生繊維・半合成繊維 ⑤ 合成高分子材料（2） 合成繊維／無機・金属繊維 ⑥ 繊維集合体（1）糸 ⑦ 繊維集合体（2）織物 ⑧ 繊維集合体（3）編物・レース ⑨ 不織布／副資材 ⑩ 材料の機能性付与と加工 ⑪ 材料の性能評価（1）機械的性能と評価方法 ⑫ 材料の性能評価（2）保健衛生的性能と評価方法 ⑬ 材料の性能評価（3）風合い・その他特性と評価方法 ⑭ 繊維製品の品質表示 ⑮ 繊維材料の最新トピックス ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】解説予定の素材や特性について、日常生活での使用形態について確認しておく。 【復習】毎回配付される資料について、講義中解説した重要項目について復習する。		
評価方法	出席状況・受講態度20％、期末試験80％で、総合判定する		
履修条件	あらかじめ『材料学』を受講しておくことが望ましい		
教科書	『繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版』／榎本雅穂、古濱裕樹編著／アイケイコーポレーション		
参考書	『はじめて学ぶ繊維』日刊工業新聞 『衣服材料の科学』建帛社		

科 目 名	ファッションビジネス論 Theory of Fashion Business	単 位 数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担 当 者	柴田 佐和子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ファッションビジネスの全貌を知り、テキスタイル産業・アパレル産業・小売業の業務を理解することを目的とする。 現代社会においてファッションは欠かせないものである。日々移り変わる、消費者のニーズを素早く見極め、魅力的な商品を提供するプロセスを知ること、ファッション産業に携わるための基礎的な知識を習得することを到達目標とする。		
授業概要	ファッションを消費者ではなくビジネスとして担っていく立場から捉え、ファッションビジネスの特性や消費者の生活と消費の関わり、ファッション産業の特性と構造について、ショップにおける商品開発やプロモーション（販売促進）など、ファッションビジネス分野の基礎的な知識を体系的に学ぶ。 なお、本授業は『ファッションビジネス能力検定』の取得対策授業であり、積極的な検定受験を推奨し、資格取得を目指すための小テスト等を実施する。 【SDGs：4, 6, 9, 12】		
授業計画	① ファッションビジネスの定義と特性 ② ファッション生活と消費 ③ ファッション産業構造(1) ④ ファッション産業構造(2) ⑤ テキスタイル産業 ⑥ アパレル産業 ⑦ アパレル小売産業 ⑧ ビジネス知識と計数管理 ⑨ ファッションマーケティング ⑩ ファッションマーチャンダイジング ⑪ アパレル商品開発 ⑫ ファッション流通とプロモーション ⑬ ファッション商品知識 ⑭ ファッション産業の職種と業務内容 ⑮ 小テスト（検定試験対策のため、時期は検定試験スケジュールに合わせる）		
予復習等	【予習】教科書、配布資料を読み次回の授業内容について予習する。 【復習】授業で行った内容について復習を行うとともに、参考書等で検定対策をする。		
評価方法	出席状況・受講態度30％、小テスト・提出物70％		
履修条件	衣料管理士必修		
教科書	『ファッションビジネス 3級 新版』日本ファッション教育振興協会、配布資料		
参考書	文化ファッション体系『ファッションビジネス』、ファッションビジネス能力検定試験2,3級項目別試験問題・解答集		

科 目 名	ファッションマーケティング Fashion Marketing	単 位 数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（１年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	下川 美都子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	消費者のニーズ（欲求）を徹底的に分析し、消費者（需要側）が共感できる魅力的な商品をファッション企業（供給側）はいかに提供できるか。ファッション業界ではマーケティングは重要な活動であり、現在、さらに強化している。本授業では、学生が市場調査や定点観測・ターゲットのマーケット動向の分析・次シーズントレンド情報分析など、マーケティングのプロセスを習得することを目的とする。さらに、学生がブランド戦略へ発展させる能力を養うことを到達目標とする。基本アパレルアイテム用語（小テストを実施）を理解し、学生各自の次シーズントレンド予測を作成する。		
授業概要	【担当者の実務経験：アパレル企業の企画室でファッションマーケティング業務に従事、さらに、百貨店でファッションマーケティング業務に従事した経験あり。】ファッション産業が多様化する現在において、ファッション企業（供給側）は消費者（需要側）に対して、より明確な商品戦略が重要になっている。①②③は、マーケティングの重要性とアイテムの基礎知識の理解を深める。④⑤は雑誌分析からイメージやタイプ、感性やマインドエイジ（年齢ターゲット）などの分析方法を習得する。⑥～⑩は、次シーズントレンド資料から、次シーズントレンド分析をまとめる。⑪～⑬はブランド調査、競合店調査を行い、よりマーケティング分析の理解を深める。（※学外セミナーの日程により授業計画が移動する場合がある。） 【SDGs：5, 12】 【岐阜学関連の授業回：⑩】		
授業計画	① ファッションマーケティングの重要性 ② マーケット動向 今シーズントレンドアイテムリサーチ ③ アイテム&デザインディテール知識 ④ シーズンサイクルとワードローブ ⑤ ファッションタイプ・マインドエイジ、感性分析、ポジショニング分析 ⑥ 学外セミナー ⑦ 次シーズントレンド情報分析（感性グループ、トレンドテーマ） ⑧ 次シーズントレンド情報分析（カラー・素材・柄） ⑨ 次シーズントレンド情報分析（シルエット、アイテム等、まとめ） ⑩ ⑦～⑨を踏まえて、次シーズン予測まとめ（SDGs概念も入れながら予測） ⑪ ブランド分析（１） ⑫ ブランド分析（２） ⑬ 競合店調査（１） ⑭ 競合店調査（２） ⑮ プレゼンテーション		
予復習等	【予習】マーケティング分析で、新聞・雑誌など最新の情報は自主的に調査しておくこと。 【復習】マーケティング分析の進行を遅れないよう、常に理解を深め作成しておくこと。		
評価方法	受講態度20%、小テストと競合店調査レポート30%、提出課題（次シーズントレンド予測、ブランド調査）50%		
履修条件	衣料管理士必修。前期「ファッションビジネス論」を履修していることが望ましい。		
教 科 書	プリント配布、各自興味ある雑誌を購入し用意のこと。※課題提出指定ファイルは自己負担		
参 考 書	文化ファッション体系 流通①『ファッションビジネス流通編基礎』文化出版局		

科 目 名	ファッション史概論 Introduction to History of Fashion Design	単 位 数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（１年後期）	科目区分	講義
担 当 者	中村 圭美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	西洋服飾史のみならず、芸術、デザイン、身体、建築といった切り口から、ファッションと私たちとの関わりについて広く考えることを目的とし、以下の３点を到達目標とする。 （１）西洋服飾史と、関連する社会、文化、歴史についての基礎的知識を習得する。 （２）身体、芸術、文化、社会と私たちのあり方の基礎的知識を習得する。 （３）ファッション、デザイン、建築の資料としてデザインの発想を生み出すための知識を習得する。		
授業概要	【担当者の実務経験：神戸ファッション美術館にて学芸員として勤務】 「ファッション」を、単に衣服や化粧といった行為のみで語るのではなく、もっと広い意味を持つものとして捉え、衣服が着用された時代の歴史的背景やその当時の流行や衣服のつくりなども含めて、文化的、社会的、政治的な側面にも着目し、ファッションと私たちとの関わりについて考察してく。絵画、写真、雑誌、映像、そして、神戸ファッション美術館が所蔵する、１８世紀から現代に至るまでのファッションに関する豊富な作品や資料などを使用して、講義をすすめる。また、「ファッション」にまつわる基礎的な知識を、服飾史、身体論、アート、建築などを通して紹介する。 【SDGs：12】		
授業計画	① ガイダンス&服飾史概観（１）18世紀ロココまで ② 服飾史概観（２）18世紀ロココ ③ 服飾史概観（３）エンパイアからロマンチックスタイル ④ 服飾史概観（４）クリノリンからバスルそしてジャポニスム ⑤ 服飾史概観（５）アール・ヌーヴォ、アール・デコ ⑥ 服飾史概観（６）オートクチュール黄金期 ⑦ 服飾史概観（７）現代（１） ⑧ 服飾史外観（８）現代（２） ⑨ ファッションの展覧会 ⑩ デザインとは ⑪ 環境とファッション ⑫ 建築とファッション ⑬ ファッションと身体 ⑭ 現代アートとファッション ⑮ 山口小夜子 ⑯ まとめ		
予復習等	【予習】教科書、参考書、映像資料など授業内容に該当するページを読んでおくこと。 【復習】授業でおこなった内容について確認を行う。		
評価方法	出席状況・受講態度50%、レポート50%		
履修条件	なし		
教 科 書	増補新版 カラー版 世界服飾史（美術出版社）		
参 考 書	授業中に適宜紹介する。		

科 目 名	建築・インテリア基礎製図 Architecture/Interior Drawing	単 位 数	1
		必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（１年前期）	科目区分	演習
担 当 者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	建築分野では、自ら設計した平面や空間イメージを他者に伝えるため、平面図形や立体図形を正確に図示できることが重要である。本演習では、建築・インテリア設計演習Ⅰ、ⅡおよびⅢを履修する上で必要な製図法の基本知識を理解し、図面模写を通じてその技術を修得することを目的とする。		
授業概要	本科目では、製図法の基礎を学ぶための図面模写を演習する。製図法では、図面の規格や使用する用具を解説し、製図に取り組む。建築物の平面図、立面図、断面図および矩計図に関する講義と演習を行い、図面に対する理解を深める。 本演習課題で模写する図面は、木造2階建ての住宅とする。小規模木造建築の基礎的な構法についても確認しながら、製図法に対する理解を深める。 【SDGs：11】		
授業計画	① 木造建築の図面模写・平面図（１） ② 木造建築の図面模写・平面図（２） ③ 木造建築の図面模写・平面図（３） ④ 木造建築の図面模写・平面図（４） ⑤ 木造建築の図面模写・平面図（５） ⑥ 木造建築の図面模写・立面図・断面図（１） ⑦ 木造建築の図面模写・立面図・断面図（２） ⑧ 木造建築の図面模写・立面図・断面図（３） ⑨ 木造建築の図面模写・立面図・断面図（４） ⑩ 木造建築の図面模写・矩計図（１） ⑪ 木造建築の図面模写・矩計図（２） ⑫ 木造建築の図面模写・矩計図（３） ⑬ 木造建築の図面模写・矩計図（４） ⑭ 木造建築の図面模写・矩計図（５） ⑮ 木造建築の図面模写・矩計図（６） ⑯ 作品提出		
予復習等	【予習】図法について教科書で予習する。 【復習】提出締切までに完成するよう、授業外での仕上げ作業を計画的に行う。		
評価方法	出席状況・授業態度２０％、提出課題８０％		
履修条件	制作に必要な材料費等は各自で負担		
教 科 書	学芸出版社「住まいの建築設計製図」 今村 仁美著		
参 考 書	適宜、資料を配布		

科 目 名	建築・インテリア設計演習Ⅰ Architecture/Interior PlanningⅠ	単 位 数	2
		必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（１年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	前期に習得した製図や模型作成のテクニックを用いて、実際に設定された敷地を読み取り、設計要件を満たすべく建物を考え、設計し、図面と模型で表現して他者にわかりやすく伝えるための授業です。はじめての建築設計をおこなうにあたって、敷地の見方、情報の集め方、敷地模型の作り方、設計の方法を、ステップを踏んで学び、楽しく身につけることを目標とします。		
授業概要	【担当者の実務経験：建築事務所で住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】 この演習では、前期に習得した基礎製図の技術を生かして住宅の設計をします。課題敷地を読み取り、敷地模型を作成し、ボリューム模型、スチレンボード模型へとステップを踏みながら設計を進めていきます。自分が建物の使い手となったことを想定してその空間の中を歩き回ったり、使うことをイメージしていきます。 【SDGs：3・4・5・11・12・13・15】 【岐阜学関連の授業回：⑩】		
授業計画	① 課題：「住宅の設計」 課題説明および、敷地見学 敷地模型づくり ② 敷地見学 ③ 敷地分析・敷地模型づくり ④ ボリュームスタディ ⑤ ボリュームスタディ ⑥ 機能を考える ⑦ 機能を考える ⑧ 空間の囲み方、支え方を考える ⑨ 空間の囲み方、支え方を考える ⑩ 開口部のスタディ ⑪ 開口部のスタディ ⑫ プレゼンテーション ⑬ プレゼンテーション ⑭ 講評会 ⑮ 図面の手直し		
予復習等	【予習】敷地の調査、模型制作、事例調査等、設計を進めるために必要な情報収集 【復習】エスキスチェックにて指摘された箇所の検討。次週までの宿題を進めること		
評価方法	出席状況・受講態度20％、課題80％		
履修条件	課題敷地までの交通費は自己負担。		
教 科 書	コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編）、初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ（彰国社）		
参 考 書			

科 目 名	建築・インテリアCAD演習 Architecture/Interior CAD	単 位 数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担 当 者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、CADの基本的な知識・技術を習得することを目的とする。実務においては、複数のCADソフトがあるが、1つのCADソフトを扱うことができれば、他のCADソフトは比較的容易に操作することができるようになる。したがって、本講義では、世界的にも広く使用されているAutoCADの操作を教科書を見ることなく扱えるようになることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：総合建設業において建築物の構造設計・監理業務に従事した】 この演習では、CADの概要を理解し、実務において汎用的に使用されているCADソフト：AutoCADを用いて、その基本操作を学習する。また、一般的な木造の戸建住宅を 作図することにより、実務に対応したCADの製図技法および建築製図の表現方法を習得するとともに、建築図面を通して立体的な観念を身につける。 【SDGs：11】		
授業計画	① CADの概要 ② 基本操作1 ③ Lesson1 ④ 基本操作2 ⑤ Lesson2 ⑥ 基本操作3 ⑦ Lesson3 ⑧ 木造戸建住宅：1階平面図（躯体） ⑨ 木造戸建住宅：1階平面図（仕上げ） ⑩ 1階平面図まとめ・中間試験 ⑪ 木造戸建住宅：1階平面図（詳細） ⑫ 木造戸建住宅：立面図 ⑬ 図面の印刷、演習課題（RC造集合住宅：断面図）出題 ⑭ 演習課題（RC造集合住宅：断面図）1 ⑮ 演習課題（RC造集合住宅：断面図）2 ⑯ まとめ		
予復習等	【予習】教科書の操作手順をあらかじめ見ておくこと。 【復習】講義で描いた図を繰り返し練習しておくこと。		
評価方法	出席状況・授業態度20％、中間試験・演習課題80％		
履修条件	なし		
教科書	ソーテック社 鈴木孝子著「はじめて学ぶAutoCAD LT作図・操作ガイド2023」		
参考書	なし		

科 目 名	建築プレゼンテーション演習 Architecture Presentation	単 位 数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担 当 者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	建築プレゼンテーション演習では、CADで製図したデータや、撮影した画像等を用いて、建築やインテリア設計、ポートフォリオのプレゼンテーションに必要な方法や知識を、主にAdobeのフォトショップおよび、イラストレーターを使用しながら実践的に習得します。設計演習や、卒業研究はもちろん、作品をより人にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーションを目指します。 □		
授業概要	【担当者の実務経験：建築事務所で住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】 1）1年次に制作した作品等を用いて、就職活動や進学等で活用できるポートフォリオの作成を行います。 2）フォトショップおよび、イラストレーターの建築プレゼンテーションにおける基礎的なテクニックを習得します。 3）優れた建築プレゼンテーションを数多く見ることで他者に伝わりやすいプレゼンテーションを知識として蓄えます。 4）応用編として、建築・インテリア設計演習IIと連動し、設計中の建物のプレゼンテーションを実践的にを行います。 【SDGs：4・5・11】		
授業計画	① ガイドانس（建築プレゼンテーション演習の方法） ② 図面に使えるテクニック ③ 図面に使えるテクニック ④ 建築写真に使えるテクニック□ ⑤ 建築ベースに使えるテクニック ⑥ プレゼンテーションに使えるテクニック ⑦ コンペの作品からプレゼンテーションを学ぶ ⑧ コンペの作品からプレゼンテーションを学ぶ ⑨ カットイングプリンターを使おう 基礎編 ⑩ カットイングプリンターを使おう 応用編 ⑪ ポートフォリオの作成1 ⑫ ポートフォリオの作成2 ⑬ ポートフォリオの講評会 ⑭ 課題のプレゼンテーション ⑮ 講評会		
予復習等	【予習】演習で用いる画像や図面等の素材の準備 【復習】演習時間内で終わらなかった課題を進めること		
評価方法	出席状況・授業態度30％、課題70％		
履修条件	建築・インテリア設計演習Ⅰを受講していることが望ましい。		
教科書	建築プレゼンのグラフィックデザイン（鹿島出版会） 建築とインテリアのためのPhotoshop+Illustratorテクニック（エクスナレッジムック）		
参考書			

科 目 名	建築計画論 Theory of Architectural Planning	単 位 数	2
	必選区分	ID必修	
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担 当 者	白井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	建築を学ぶ、あるいは設計を行う上で必要となる基礎的な理論を習得する事を目的とする。 到達目標は、次の4つについて理解し、説明できるようになることである。 ・建築における身体、心理、行動に関する理論 ・単位空間における基本的な寸法と作法 ・住宅および集合住宅の種類と計画 ・さまざまな建築と都市の歴史的な位置づけ		
授業概要	【担当者の実務経験：公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】 本講義ではまず、建築という社会的責任を伴う行為の前提を学ぶ。次に、寸法や動線といった設計手法に関わる内容を扱う。その中で、人と建築との関係をとらえる上で必要となる理論について学ぶ。とりわけ空間というものは教科書で学ぶだけではわかりにくい側面があるため、実際に体験しながら説明を加える機会を設ける。後半では、住宅や集合住宅の実例を示しながら、それらの計画における要点を説明し、前半の内容を補強する。さらに、近代以降のさまざまな建築の事例および、それらの背景にある都市という視点での説明を加え、歴史的な脈絡の中で建築をとらえることができるように構成している。 【SDGs：11】		
授業計画	① 建築する背景 ② 倫理・設計のプロセス ③ 身体・動作・寸法 ④ 単位空間 ⑤ 単位空間 ⑥ 知覚・心理 ⑦ 行動・交流 ⑧ 空間の体験と実測 ⑨ 世界の住まい ⑩ 近現代の住宅 ⑪ 住宅の計画 ⑫ 集合住宅の計画 ⑬ 近代建築 ⑭ 都市の歴史 ⑮ 都市の計画 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】毎回のテーマについて、教科書の該当する章を読み、授業に臨むこと。 【復習】配布資料を読み、疑問点を整理すること。		
評価方法	出席状況・授業態度15％、定期試験85％		
履修条件	学修規程による。		
教 科 書	『設計に活かす 建築計画』 / 著：内藤和彦ほか / 出版：学芸出版社		
参 考 書	『コンパクト建築設計資料集成「住居」』/日本建築学会学会 / 出版：丸善		

科 目 名	西洋建築史 History of Western Architecture	単 位 数	2
	必選区分	ID選択	
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担 当 者	杉山 真魚	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業では、学生が古代から現代までの西洋建築の歴史について大きく以下の3点を学ぶことを目的とする。 ①インテリア・住居・建築に関する教養・専門知識を修得する。 ②西洋建築の空間や意匠の特徴を理解する。 ③西洋建築を取り巻く環境や技術の歴史的経緯を理解する。		
授業概要	新しい生活空間を創造・享受するためには、自然と人間のあり方を歴史的に理解することが必要である。本授業では、西洋の建築と都市に関する様々な思想を知ること、および建築作品や都市景観を見ることを通して、現代の状況を多角的に把握し、未来を見通す力を涵養する。第4回までの授業では、西洋建築の「通史的理解」を深めるため、19世紀を重大な転換点としながら、「建築」「空間」「都市」という鍵語とともに古代から現代までの流れを総覧する。第5回～第15回では各時代の社会や生活とともに建築の詳細を把握する。 【SDGs：11，12】		
授業計画	① 趣旨説明 ② 西洋建築の基礎概念（1）建築 ③ 西洋建築の基礎概念（2）空間 ④ 西洋建築の基礎概念（3）都市 ⑤ 古代の建築（1）古代オリエント建築 ⑥ 古代の建築（2）古代ギリシア建築 ⑦ 古代の建築（3）古代ローマ建築 ⑧ 中世の建築（1）初期キリスト教建築 ⑨ 中世の建築（2）ロマネスク建築 ⑩ 中世の建築（3）ゴシック建築 ⑪ 近世の建築（1）ルネサンス建築 ⑫ 近世の建築（2）バロック建築 ⑬ 近世・近代の建築 18～19世紀の建築 ⑭ 近・現代の建築（1）20世紀の建築 ⑮ 近・現代の建築（2）現代の建築 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】教科書を用いて西洋史の概略を理解しておくこと。 【復習】次の時代の展開を掴むために授業で配布する参考資料を読むこと。		
評価方法	授業態度・各回レポート課題（スケッチ課題の場合もあり）50％ 定期試験 50％		
履修条件	なし		
教 科 書	『建築史』編集委員会著『コンパクト版 建築史 日本・西洋』、彰国社		
参 考 書	適宜参考資料を配付する		

科 目 名	建築材料学 Building Materials	単 位 数	2
		必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（１年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担 当 者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、建築物で扱われている建築材料の種類や性質・機能性について、その基礎知識を体系的に理解することを目的とする。建築で扱われる材料は特に構造材料が主となり、コンクリート、鉄鋼材料、木材・木質材料が重要となる。各々を相対的に比較することによって、利点および欠点を把握し、2年生前期に学ぶ一般構造に繋がるよう理解することを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：総合建設業において建築物の構造設計・監理業務に従事した】 建築材料は、安全で機能的でありかつ意匠的にも優れた建築空間を創り出すために、様々な材料と部材が組み合わされている。これらの建築材料を選定するには、その物理的・化学的特性に加え、規格・寸法などの知識が必要となる。本講義では、建築材料の実物や現実的な図を多用することによりその理解を深めるとともに、実務経験から得た留意すべき点を講義の中で適宜解説する。木質材料１では岐阜の県産材を取り上げ紹介する。 【SDGs：9, 11, 12】 【岐阜学関連の授業回：⑧】		
授業計画	① 建築材料概論 ② 建築構成部位と材料 ③ コンクリート材料１（概要） ④ コンクリート材料２（硬化コンクリート） ⑤ コンクリート材料３（フレッシュコンクリート） ⑥ 鉄鋼材料１（概要） ⑦ 鉄鋼材料２（基本物性） ⑧ 木質材料１（概要・岐阜の木材） ⑨ 木質材料２（力学的性質） ⑩ その他の構造材料 ⑪ 仕上材料１（木質・金属・セメント系材料） ⑫ 仕上材料２（石材・セラミック系・高分子材料） ⑬ 機能的材料１（塗材・防水材料） ⑭ 機能的材料２（防火・耐火・断熱材料） ⑮ 新しい建築材料 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】教科書の該当するページを写真・図を中心にあらかじめ見ておくこと。 【復習】板書した内容で専門用語などは写真・図と一緒に覚えること。		
評価方法	出席状況・授業態度２０％、定期試験８０％		
履修条件	なし		
教 科 書	共立出版 三橋博三・大濱嘉彦・小野英哲編集 「建築材料学」		
参 考 書	なし		

科 目 名	建築環境学 Theory of Architectural Environment	単 位 数	2
		必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（１年後期）	科目区分	講義
担 当 者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	建築環境学の目的は、望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、建築計画に役立てることである。最近では、建築が都市や地球環境に及ぼす影響が注目され、ヒートアイランド現象や地球温暖化の対策としての建築のあり方にも大きな関心が持たれている。本講義では、環境要素である光、熱、空気、音に関して解説し、建築物によってどのように室内環境が形成されるかを学び、人や環境にとって望ましい室内環境を形成する建築物のあり方について考える。		
授業概要	建築を環境の面から考える意義について講義したうえで、各要素に関して解説する。まず光環境について、光および視知覚の特性を理解する。昼光利用と人工照明について学ぶ。次に、熱の伝わり方や太陽の特性について学び、室内の温熱環境形成について理解する。冷暖房によるエネルギー消費の削減には、温熱環境に影響を及ぼす要因を把握し、建築環境学的に対処することが有効である。在室者の健康には、空気質を良好に保つ必要がある。そのためには、換気が必要であり、その方法や空気汚染物質について学ぶ。生活にともない、様々な音が発生する。音の性質を知り、音の制御などについて学ぶ。そして地球規模の環境について考える。 【SDGs：7, 9, 11, 12, 13】		
授業計画	① 建築環境学の概要、環境の要素 ② 光環境（１）照明 ③ 光環境（２）色彩 ④ 温熱環境（１）熱移動と断熱 ⑤ 温熱環境（２）湿度と結露 ⑥ 温熱環境（３）体感温度 ⑦ 温熱環境（４）太陽と日射 ⑧ 空気環境（１）空気汚染物質と換気 ⑨ 空気環境（２）自然換気 ⑩ 空気環境（３）機械換気 ⑪ 空気環境（４）換気計画、通風 ⑫ 音環境（１）音の性質 ⑬ 音環境（２）吸音・遮音・音響 ⑭ 音環境（３）騒音と振動 ⑮ 地球環境 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの予習を行うこと。 【復習】復習を通じて理解を深め、次の講義に臨むこと。		
評価方法	出席状況・授業態度・提出物・小テスト３０％，定期試験７０％		
履修条件	なし		
教 科 書	学芸出版社「図説 やさしい建築環境」 辻原万規彦監修，今村仁美・田中美都著		
参 考 書	適宜，資料を配布		

科 目 名	建築設備学 Theory of Architectural Equipment	単 位 数	2
		必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担 当 者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	建築設備とは、建築物に設ける給排水設備や冷暖房設備、換気設備、電気設備などを指し、現代の建築物にとって不可欠なものである。建築設備は、人々の利便性・快適性の追求の中で生まれ、近現代に急速に発展・普及した。一方、この発展の過程は、エネルギー使用の増大と地球・都市の環境悪化の過程でもあり、環境保全に配慮した技術が求められている。建築設備が果たす役割を把握し、快適な室内環境を実現するための建築デザインのあり方を考える。		
授業概要	給排水設備とは、建築に水を供給し、衛生的に使用する器具を設け、使用した水を排水する設備である。水は生活に欠かせないものであり、衛生的であることが求められる。汚染を防ぎ、円滑に排水する方法について学ぶ。室内空気を調整する設備が空気調和設備である。温度や湿度、清浄度を調整して室内に供給する。建築の規模などに応じた方法を学び、省エネルギーについて考える。建物に電気を受電し、各使用箇所に配電する電気設備は、コンセント設備や情報通信設備など、建築物内で使用する電化製品の増加や情報化の進展により、重要度が増してきている。人やモノを運ぶ搬送設備、防火や避難のための防災設備についても学び、快適で安全な建築環境の形成に資する建築設備に対する理解を深める。 【SDGs：6, 7, 9, 11, 12, 13】		
授業計画	① 建築設備学の概要、環境とエネルギー ② 給排水設備（1）給水設備 ③ 給排水設備（2）給湯設備 ④ 給排水設備（3）排水・通気設備 ⑤ 給排水設備（4）衛生器具設備 ⑥ 給排水設備（5）ガス設備 ⑦ 空気調和設備（1）空気調和 ⑧ 空気調和設備（2）空気調和システム ⑨ 空気調和設備（3）熱源方式 ⑩ 空気調和設備（4）空気調和装置 ⑪ 空気調和設備（5）省エネルギー ⑫ 電気設備（1）受変電設備 ⑬ 電気設備（2）照明設備、情報通信設備 ⑭ 搬送設備 ⑮ 防災設備 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの予習を行うこと。 【復習】復習を通じて理解を深め、次の講義に臨むこと。		
評価方法	出席状況・授業態度・提出物30％，定期試験70％		
履修条件	なし		
教 科 書	学芸出版社「図説 建築設備」 村川三郎監修，芳村恵司・宇野朋子編著		
参 考 書	適宜，資料を配布		

科 目 名	インテリアデザイン論 Theory of Interior Design	単 位 数	2
		必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）[岐阜学関連科目]	科目区分	講義
担 当 者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	人間が主に生活の場とする室内空間を、生活する人間の立場で捉え、計画する。インテリアという概念が発生、成立した歴史を学ぶ。また、インテリアは多様な構成要素が相互に関連し合った集合体であり、各要素を理解し、インテリアを計画するための知識を修得する。人間の立場から室内空間のあり方を考える。		
授業概要	「インテリア」とは、西洋で成立した概念を輸入したものであり、まず、その成立した背景を知る。建築の内部空間としてのインテリアは、多様な要素から構成されている。固定したもの、動かせるものと設備、インテリア装備・アクセサリーの三段階に分け、それぞれについて、壁・床・天井・開口部、家具・照明・設備、アクセサリー・グリーンなどの各要素を、実際のインテリア空間を通じて理解する。また、インテリアの設備である照明の計画・制作を演習する。 【SDGs：9, 11, 12】 【岐阜学関連の授業回：⑨】		
授業計画	① インテリア概念の成立 ② インテリアエレメント ③ 壁・床・天井 ④ 開口部 ⑤ 家具の形態 ⑥ インテリア・家具と人体との関係 ⑦ 人間工学の家具への応用 ⑧ 行動特性と感覚・知覚 ⑨ インテリアの材料・素材、岐阜の素材とインテリアエレメント ⑩ インテリアの設備 ⑪ インテリア照明の計画 ⑫ インテリアアクセサリー ⑬ インテリアの緑化 ⑭ インテリアデザインのプロセス ⑮ インテリア照明の成果発表 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】生活の中で接する様々な空間、それらを構成するインテリアをよく観察すること。 【復習】配布する資料を復習し、インテリア設計に必要な知識を深めること。		
評価方法	出席状況・授業態度20％，レポート・提出課題・定期試験80％		
履修条件	制作に必要な材料費等は各自で負担		
教 科 書	適宜，資料を配布		
参 考 書	適宜，資料を配布		

科 目 名	グラフィックデザインⅠ Graphic DesignⅠ	単 位 数	2
		必選区分	VD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担 当 者	井口 仁長	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	文字に関する基本的な知識や文字を使ったいろいろな表現（タイポグラフィ）を知り実践できること、シンボルマークやピクトグラムといった「絵文字」に関する基本的な知識を身につけること、身の回りにあるモノを観察し気付いたことを自分のものづくりに応用できること、言葉や言語に頼らず内容の伝達を直感的に行うための表現を知り実践できること、利用者が求めているものを考察し思いやりをもって制作できること、道具を大切に扱い丁寧な制作ができることを目的とし、グラフィックデザインを行ううえでの基礎となる技術や知識の習得を到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公共施設および企業のVI設計や広報物作成の経験あり。】 私達はたくさんのデザインに囲まれて生活をしています。グラフィックデザインとは、情報を伝達する手段として、文字／画像／色などを視覚的に構成することです。この授業では文字を的確にかつ美しく構成するタイポグラフィや、絵文字・サインと呼ばれる視覚記号に関する簡単な講義と、それぞれのリサーチや演習を通じてグラフィックデザインとは何かを考えます。パソコンは使わず手で書くことが主な制作手段となるため、手先の器用さや画材等を汚さずに扱う丁寧さも求められます。 【SDGs：9, 12, 17】		
授業計画	① ロゴマーク基本(1) リサーチ ② ロゴマーク基本(2) 中間チェック ③ ロゴマーク基本(3) 発表 ④ ロゴマーク応用(1) リサーチ ⑤ ロゴマーク応用(2) 中間チェック ⑥ ロゴマーク応用(3) 発表 ⑦ 生活の中にある文字 ⑧ 生活の中にある色 ⑨ ピクトグラムによる表現 ⑩ 施設で利用されるピクトグラム(1) リサーチ ⑪ 施設で利用されるピクトグラム(2) 中間チェック ⑫ 施設で利用されるピクトグラム(3) 発表 ⑬ 街や施設のサインシステム ⑭ 学内サインシステムの提案(1) リサーチ ⑮ 学内サインシステムの提案(2) 中間チェック ⑯ 学内サインシステムの提案(3) 発表		
予復習等	【予習】身の回りにあるたくさんのデザインされたものを意識して見ること。 【復習】課題ごとに制作過程を振り返ること。		
評価方法	提出物80％、発表・プレゼンテーション10％、出席状況・受講態度10％		
履修条件	学習規定による。制作に必要な材料費は各自で負担すること。		
教 科 書	なし。授業ごとに資料を配布する。		
参 考 書	授業内で適時紹介する。		

科 目 名	C G 演習 Computer Graphics	単 位 数	2
		必選区分	VD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担 当 者	奥村 和則	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	学生が二次元CGを作成するために必要な基本的知識とスキルを習得し、各自のアイデアをスムーズにCGにて表現できるようになることが到達目標である。2年次以降に開講されるデジタルデザイン系科目の礎となる科目であるため、情報リテラシーおよびコンピュータリテラシーの向上も図りつつ、デジタルデザインについて幅広い表現を興味・関心を持ち、それを理論的に再構築できるようになることを目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィック／編集デザイン業務の従事経験あり】 本講義では、印刷（DTP）およびWeb用グラフィックを作成するための業界標準アプリケーションソフト、Adobe PhotoshopとIllustratorの基本操作、および、デジタルデザインの基礎的な技術や知識の習得を目指す。この2つのアプリケーションソフトを通じ、ベクタデータとラスタデータの特性を理解し、コンピュータによる二次元表現を行う際に、必要な能力を身につけ、今後の専門科目に繋げていく。 【SDGs：4, 8, 9, 12】		
授業計画	① イントロダクション ② ベクタデータの編集（1）－色彩と配置 ③ ベクタデータの編集（2）－文字 ④ ベクタデータの編集（3）－線と平面レイアウト ⑤ ベクタデータの編集（4）－ガイドとレイヤー ⑥ ベクタデータの編集（5）－習得試験・実践的演習 ⑦ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑧ ラスタデータの編集（1）－画像サイズとトリミング ⑨ ラスタデータの編集（2）－パスと切り抜き ⑩ ラスタデータの編集（3）－範囲選択とチャンネル ⑪ ラスタデータの編集（4）－フィルター/効果 ⑫ ベクタとラスタの連携と印刷設定 ⑬ 統合的なデータ編集（1）－課題提示・カンパ作成 ⑭ 統合的なデータ編集（2）－エスキース ⑮ 統合的なデータ編集（3）－本制作 ⑯ 成果発表 ～プレゼンテーション～		
予復習等	【予習】CGに関する表現手法を、可能な範囲で調査を行っておくこと 【復習】提示された課題に取り組み、各週エスキースにて進捗を報告すること		
評価方法	出席状況・受講態度30％、提出作品・プレゼンテーションによる評価70％		
履修条件	なし		
教 科 書	ファー・インク著「Photoshop+Illustrator+InDesignで基礎力を身につけるデザインの教科書」		
参 考 書	上司ニシグチ著「Illustrator & Photoshopデザインの作り方 アイデア図鑑」SBクリエイティブ		

科 目 名	メディアデザイン論 Theory of Media Design	単 位 数	2
		必選区分	VD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担 当 者	奥村 和則	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	メディアデザインに関する作品を制作するため、それらで求められる知識の習得を目的とする。講義範囲は多岐にわたり、また随時更新されることもあるため、日頃からのこれらの情報に接しておく必要がある。情報の収集を通し、メディアリテラシーの有り方も考察していく。さらに日常を取り巻くデジタル環境についても理解する必要があるため、マルチメディア検定（ベーシック）同程度の知識の獲得を到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィック／編集デザイン業務の従事経験あり】 メディアデザインとは、静止画・動画・音楽（楽曲）・文（文章）・書籍・通信方法・芸術的表現など様々なジャンルのプラットフォームを横断させながら創り上げていくデザイン表現手法である。現代にみられるこのメディアについて、その役割と仕組みを、事例を通し考察していく。また、メディアデザインと密接に関係しており、社会において重大な役割を果たすマルチメディア・デバイスやIoT（Internet of Things）についても取り上げ、考察する。 【SDGs：4, 8, 9, 12】		
授業計画	① イントロダクション ② メディアデザインとマルチメディア（1）－歴史変遷 ③ メディアデザインとマルチメディア（2）－IoT装置 ④ メディアデザインとマルチメディア（3）－社会変化 ⑤ メディアデザインとマルチメディア（4）－法・特許 ⑥ メディアデザインとマルチメディア 総括 ⑦ コンピュータによる表現の変化 ⑧ 紙メディアのデザイン ⑨ 映像メディアのデザイン ⑩ デザイン戦略とメディア ⑪ 広告にみるメディアデザイン ⑫ コミュニケーションデザイン ⑬ メディアアートとインタラクティブ性 ⑭ メディアリテラシーとテレビ放送 ⑮ メディアデバイスとしての携帯電話の変遷 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】事前配布されるレジュメに取り組むこと 【復習】講義内で不明瞭な内容を調査し、レジュメに追記すること		
評価方法	出席状況・受講態度20％、定期試験70％、提出物10％□		
履修条件	なし		
教 科 書	CG-ARTS協会「入門マルチメディア」		
参 考 書	授業内で紹介する		

科 目 名	イラストレーション I Illustration I	単 位 数	2
		必選区分	VD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担 当 者	小川 直茂	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業では、ノンバーバル・コミュニケーション（非言語による情報伝達）の代表的事例であるイラストレーションについて、その表現のための基礎的な知識・技術を習得することを目的とする。観察力／発想力／描写力の修練と向上に加えて、実社会におけるさまざまなイラストレーションの用途を把握し、適切な情報伝達の観点に立って伝えるべき情報の性質に対応できる幅広いイラストレーション表現能力を身につけることを到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：メディア系企業にてグラフィックデザイン／編集デザイン／イラストレーション制作業務の従事経験あり】 幅広いイラストレーション表現能力を習得する観点から、表現対象（具象～抽象）および表現手法（写実的表現～誇張的表現）の両要素に対してバランスを考慮した授業内容を設定している。授業前半の基礎課題では、人物をはじめとして、植物／動物／人工物／空間に至る身近なモチーフを題材に取り上げ、観察力と発想力の双方を必要とする課題制作に取り組む。授業後半では、実社会を想定したイラストレーション制作としてキャラクターデザインの課題に取り組み、実務経験にもとづく実践的な指導によって、デザイン制作の一環としてのイラストレーション表現のあり方について体験的に学習する。なお、本授業の課題は全てアナログ画材を用いて制作する。 【SDGs：9, 12】		
授業計画	① イントロダクション、画材探求 ② 人物を描く（1）：人体表現の基本／デフォルメ ③ 人物を描く（2）：老若男女の表現 ④ 人物を描く（3）：喜怒哀楽の表現 ⑤ 成果発表（1） ⑥ 自然物を描く ⑦ 人工物を描く ⑧ 空間を描く（1）：一点透視図法 ⑨ 空間を描く（2）：二点透視図法 ⑩ 成果発表（2） ⑪ キャラクターデザイン（1）：コンセプトメイキング ⑫ キャラクターデザイン（2）：アイディア検討 ⑬ キャラクターデザイン（3）：ラフ制作 ⑭ キャラクターデザイン（4）：ブレ制作 ⑮ 成果発表（3）、まとめ		
予復習等	【予習】授業で取り上げる課題テーマについて、あらかじめ先行事例の調査を行っておくこと。 【復習】授業時に示した課題について、授業時間外の制作を経て指定の時期までに提出すること。		
評価方法	提出作品による評価：80％、受講態度による評価：20％		
履修条件	課題制作に必要な用具・材料費は受講生の自己負担とする。		
教 科 書	なし。授業回ごとに必要な資料を配付する。		
参 考 書	『みんなのイラスト教室』／著：中村佑介／出版：飛鳥新社□		

科 目 名	情報デザイン論 Theory of Information Design	単 位 数	2
		必選区分	VD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担 当 者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、Webサイトの構築と運営について学ぶ。作るのではなく、創るWebサイトとはどのようなものかについて考えていく。ユニバーサルデザイン、アクセシビリティなどの配慮をしたWebサイトの構築に向け、HTML、CSSについての知識、技術を座学と演習とで学習する。本授業の履修の成果とその発展においては、CG-ARTs協会 Webデザイナー検定（ベーシック）の資格取得に必要なとなる基礎知識の獲得をねらいとする。		
授業概要	Webサイトは「情報発信」を担うツールである。情報発信とはどういうものか、「効果的な情報発信」をキーワードとして、毎回の授業では知識を得る「座学」と実際に操作しWebサイト作成技術を獲得する「演習」とを組み合わせ進行していく。 履修生の習熟度に注意して授業進行を心がける。そのため、本シラバスに記す授業計画と違う内容を取り扱う可能性もあることを理解し受講してもらいたい。 【SDGs：4, 12, 17】		
授業計画	① 授業導入ーWebサイトの役割とは 日常的にどのような場面で活用する？ ② 情報発信とそのコンテンツ ③ 情報発信における「知的財産権」の理解 ④ Webサイトの構成言語とCSS ⑤ HTMLの第一歩 HTMLの構造を理解する ⑥ 画像配置、表組、ハイパーリンクを効果的に組み合わせる ⑦ CSSとは何か？Webデザイン、レスポンシブルを考える ⑧ やりたいことを楽して実現する 様々なサービスとの連携 ⑨ ここまでの振り返り 知識・技能の整理 ⑩ Webサイトの制作 企画 ⑪ Webサイトの制作 デザイン ⑫ Webサイトの制作 アクセシビリティ、ユニバーサルデザイン ⑬ Webサイトの制作 コーディング ⑭ Webサイトのメンテナンス サイトは“いきもの”である ⑮ まとめ ⑯		
予復習等	【予習】指定教科書の使用予定範囲について読む。プレゼンテーションの準備。 【復習】その授業回で学習した内容の振り返りと技術の確認。		
評価方法	授業内の課題達成度（20%） 最終課題作品（50%） 授業に対する姿勢（30%）		
履修条件	なし		
教 科 書	CG-ARTs検定協会「入門Webデザイン 改定第四版」 ISBN:978-4903474663		
参 考 書			

科 目 名	認知情報処理 Cognitive Information Processing	単 位 数	2
		必選区分	VD選択
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担 当 者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「情報処理」という言葉は、コンピュータ技術の発展にともなって普及してきたものである。情報理論も最終的には、人間の情報処理理論に学ばなければならないことが多数あることが指摘されている。実際に、我々は日常生活において、じつに様々な情報処理を無意識のうちに繰り返し生活をしているのである。本講義では、日常生活という非常に身近な事例を挙げ、認知と情報処理との接点、その不思議に迫り、認知情報処理についての理解を深めていく。		
授業概要	我々は主に、視覚を使った認知を日常的に行う。認知とは何か？にはじまり、情報処理と認知との関連、「見る」ための「視覚」についての理解を深める。また、デザイン技能を援助する一助として、他の文化、背景に関わる知識にも講義を及ばせ、認知からのデザイン、デザインによる認知の双方向を理解することを目指す。 新しい分野についても取り扱うため、本シラバスに掲載する以外の話題を取り扱う回が生じる可能性も十分にあることも理解し受講してもらいたい。 【SDGs：4】		
授業計画	① 授業導入 「情報」とは何か？情報の価値とは ② 情報処理 処理の理解～その処理は果たして「最適」なのか？ ③ コンピュータの発達の歴史、インターネットの歴史と情報処理の関係 ④ 「認知」とは何か？意識ある認知と無意識の認知 ⑤ 認知のためのコミュニケーション ⑥ ヒトの感覚あれこれ 情報を取りに行くのか、受け取るのか 情報の取捨選択 ⑦ 視覚過程と理解過程 ⑧ これまでの振り返り ⑨ CASVEサイクル ⑩ メタ認知、その重要性 ⑪ 百聞は一見に如かず～一見の認知 一見記憶はどこまで信用できるか？ ⑫ 実記憶と虚記憶 記憶のメカニズムに迫る ⑬ 認知と情報処理 この双方の繋がり ⑭ 日常生活においての認知～その活用と適応 ⑮ まとめ、発表 ⑯		
予復習等	【予習】配信資料を読み、知らない語についてまとめる 【復習】その授業回で学習した内容の振り返り		
評価方法	平常点、授業の参加度・ビジュアル課題（50%） 最終レポート（50%） ※授業内レポートについては、上記「平常点」へ加える		
履修条件	心理学を受講することが望ましい		
教 科 書	指定する教科書は無い。授業において適宜資料を配信する。		
参 考 書			

科 目 名	ビジュアルリテラシー Visual Literacy	単 位 数	2
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	必選区分	VD選択
担 当 者	神谷 勇毅	科目区分	講義
担 当 者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	我々は、主に「視覚」から膨大な情報を得ている。視覚からの情報を無意識に解析し行動することもある。情報を伝える（伝達）するためには、どのような視覚情報を提示すればよいのか。より強く伝えるためには、どのような提示方法が効果的だろうか。情報を受け取る側は、そこから何を読み取るべきか。時に、意図とは違う情報が伝わってしまうことも起こる。なぜ意図とは違う情報が伝わるのだろうか。 ビジュアルリテラシーは、現代社会において必須ともいえる能力の1つである。 本授業では、ビジュアルリテラシーに対する理解を深め、今後効果的にその能力を活用していくための知識、技能について学習する。		
授業概要	「リテラシー」の特徴・特性を理解するとともに、ビジュアルに関わるリテラシーの理解を深めることで、今後のデザイン活動の一助となる知識を広く身につけていく。 【SDGs：4】		
授業計画	① 授業導入 ビジュアル（Visual）とリテラシー（Literacy）その背景 ② リテラシーとは何か どの時代にもリテラシーは存在するのか ③ ビジュアルリテラシーとは何か その定義と変遷 ④ ビジュアルリテラシーの可能性 ⑤ 近代におけるビジュアルリテラシーとその活用と展望 ⑥ 認知のなかのビジュアルリテラシー ⑦ 伝えよう、それが正しく伝わるか？ 正しく伝えるための工夫とは ⑧ 前半のまとめ ⑨ 図書館情報学とビジュアルリテラシーの理解 ⑩ 様々な分野におけるビジュアルリテラシー①芸術との接点 ⑪ 様々な分野におけるビジュアルリテラシー②STEMとの接点 ⑫ 様々な分野におけるビジュアルリテラシー③社会科学との接点 ⑬ 創造とビジュアルリテラシー ⑭ 伝えるを創るために何が必要か ⑮ まとめ、発表 ⑯		
予復習等	【予習】授業ごとに提示する「次回予告」を基とした自己学習 【復習】その授業回で学習した内容の振り返り		
評価方法	平常点、授業の参加度（50％）※ビジュアル制作を含む 最終レポート（50％）		
履修条件	なし		
教 科 書	なし		
参 考 書	勁草書房「大学生のためのビジュアルリテラシー入門」原木 万紀子（著） ISBN:978-4326050192		

科 目 名	コミュニケーションデザイン論Ⅰ Theory of Communication Design Ⅰ	単 位 数	2
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）[岐阜学関連科目]	必選区分	VD選択
担 当 者	小川 直茂	科目区分	講義
担 当 者	小川 直茂	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業では、コミュニケーション（＝意思／感情／思考の伝達）を題材とし、ヴィジュアル・コミュニケーションを含めたコミュニケーション全体について理解を深めることを目的とする。特にバーバル・コミュニケーション（言語による情報伝達）に重点をおいた授業計画を設定し、総合的コミュニケーションデザイン能力の向上を目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：メディア系企業にてグラフィックデザイン／編集デザインの従事経験あり】 本授業では、デザイン制作におけるバーバル・コミュニケーションの代表的事例として広告デザインのコピーを取り上げる。授業前半でキャッチコピー／ボディコピー／ショルダーコピーなど、広告デザインにおけるコピーの分類や特性、位置づけなどを解説した上で、授業中盤以降はコピーライティングの体験的学習としてキャッチコピーの提案に取り組む。また、情報伝達における言語表現と視覚表現の特性の差異や、両者の複合的活用について、実務経験にもとづいた実践的な指導によって、総合的コミュニケーションデザイン能力の習得へと繋げる。 【SDGs：4, 8, 9, 12】 【岐阜学関連の授業回：⑩～⑬】		
授業計画	① イントロダクション ② コピー概論 ③ セルフプロモーション：調査・分析 ④ セルフプロモーション：ディスカッション、コンセプト立案 ⑤ セルフプロモーション：コピー・エスキース（1） ⑥ セルフプロモーション：コピー・エスキース（2） ⑦ セルフプロモーション：ヴィジュアル・エスキース ⑧ セルフプロモーション：カンパチェック ⑨ セルフプロモーション：成果発表 ⑩ コピーライティング実践：調査・分析 ⑪ コピーライティング実践：ディスカッション、コンセプト立案 ⑫ コピーライティング実践：コピー・エスキース（1） ⑬ コピーライティング実践：コピー・エスキース（2） ⑭ コピーライティング実践：コピー・ピアレビュー ⑮ コピーライティング実践：成果発表 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】授業で取り上げる課題テーマについて、あらかじめ先行事例の調査を行っておくこと 【復習】授業時に示した課題について、指定された時期までに提出すること		
評価方法	【自学科学生の場合】 提出作品・プレゼンテーションによる評価：80％、受講態度による評価：20％ 【他学科学生の場合】 提出作品・プレゼンテーションによる評価：80％、受講態度による評価：20％		
履修条件	なし		
教 科 書	なし		
参 考 書	谷山雅計「広告コピーってこう書くんだ!読本」宣伝会議，2007		

科 目 名	課題研究 Seminar	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	デザイン環境学科（１年後期）	科目区分	演習
担 当 者	デザイン環境学科教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	２年次の地域実践演習（卒業研究）を円滑に行うための予備段階として、ゼミ形式での授業の進め方を体験し会得するとともに、世の中の事物に対し自ら問題意識を持ち解決する力を習得することを目的とする。また、長期間にわたって計画立てて研究・制作ができる力を身に付けることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：2、4～6、8の研究室は実務経験のある講師が担当】 デザイン環境学科の各教員に少人数の学生を配属し、教員の指導のもとで関心のあるテーマについて、研究、制作、発表、または専門にかかわる文献や外書の輪読などを行う。教員の専門分野についてガイダンスを行った後、受講者の希望と教員との相談をもとに、配属研究室を決める。所属する領域以外の研究室を選択することも可能である。１年前期の履修科目の成績で配属研究室を調整することがある。 【SDGs：1, 9, 11, 12, 17】		
授業計画	① 担当教員と話し合って研究テーマを設定して、研究活動、制作活動を行う。 ② （１）「教養演習」でガイダンスを実施後、希望研究室調査書を提出する。 ③ （２）調整の必要がなければ、配属を揭示発表する。 ④ （３）調整が必要な場合は、調整後配属を揭示発表する。 ⑤ 研究室 ⑥ １．ファッション造形・デザイン研究室 ⑦ ２．材料学研究室 ⑧ ３．ファッションクリエイト研究室 ⑨ ４．建築・環境デザイン研究室 ⑩ ５．建築・地域デザイン研究室 ⑪ ６．建築構造・材料研究室 ⑫ ７．インテリアデザイン研究室 ⑬ ８．グラフィックデザイン研究室 ⑭ ９．メディアデザイン研究室 ⑮ １０．情報デザイン研究室 ⑯		
予復習等	【予習】担当教員の指導による。 【復習】担当教員の指導による。		
評価方法	研究、制作過程や成果を判定し、担当教員が決定する。		
履修条件	選択科目であるが、２年次の地域実践演習（卒業研究）を円滑に進めるためには、受講することが望ましい。		
教 科 書	担当教員による。		
参 考 書	担当教員による。		

科 目 名	地域産業論 Local Industry	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）[岐阜学関連科目]	科目区分	講義
担 当 者	野崎 道哉	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義では、地域経済を個人の暮らしや働き方、自然や産業の調和など生活者の視点で捉え直し、持続可能な地域産業のあり方を学生自身が理解し、地域経済のリデザインに向けた実践について修得することを目指す。中部地域の産業構造、岐阜県の産業構造についても検討し、他地域の産業構造との比較を行う。		
授業概要	【担当者の実務経験：研究所で中部圏地域間産業連関表の作成・活用に関する業務に従事した経験がある。】 地域産業論は、地域経済を生産や地域産業構造といった需要サイドの視点から内発的發展や政策に対するアプローチだけではなく、個人の暮らしや働き方、自然や産業の調和など生活者の視点で捉え直し、持続可能な地域産業のあり方を議論する。地域産業のケーススタディとして、岩手県、青森県など他地域の事例、中部地域の産業構造、岐阜県の産業構造について議論する。特に、岐阜県の地域産業構造については、岐阜県、大垣市の産業連関表を用いて地域産業について定量的に論じる。 【SDGs：8, 9】 【岐阜学関連の授業回：⑦, ⑨, ⑩】		
授業計画	① イントロダクション：地域産業論について ② 経済成長と多様性：経済とまちづくりの双眼的視点 ③ 地域経済と雇用・働き方の変化：地域雇用の構造変化 ④ 地域経済と産業振興（１）：岩手県花巻市・北上市の事例 ⑤ 地域経済と産業振興（２）：青森県弘前市・黒石市の事例 ⑥ 中部地域の産業の特徴 ⑦ 岐阜県の産業の特徴 ⑧ 第２回～第７回の復習、第１回小テスト ⑨ 岐阜県産業連関表による地域産業構造の分析 ⑩ 大垣市産業連関表による地域経済構造の分析 ⑪ 産業、生活、文化の総体としてのまち ⑫ 田園都市の産業と文化にみる「地域の価値」 ⑬ 分散型社会と地域の「受け皿」 ⑭ 第９回～第１３回の復習、第２回小テスト ⑮ 持続可能な地域経済のリデザインに向けて ⑯ 期末試験（記述式試験、教科書・配布資料持ち込み可）		
予復習等	【予習】：次回の授業に関わる教科書の章を読み、用語の意味などを調べておく。 【復習】：配布資料、教科書の内容を復習し、記述式の演習問題を解けるようにしておく。		
評価方法	小テスト30％、期末試験70％の合計100％で総合的に評価する。		
履修条件	なし		
教 科 書	『地域経済のリデザイン』／著：松永桂子／出版：学芸出版社 授業ではレジュメ、参考資料を配布する。		
参 考 書	[新版]『地域ブランドと地域経済』／著：佐々木純一郎ほか／出版・同友館		

科 目 名	地域産業計画演習 Local Industry Planning	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	デザイン環境学科（２年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	野崎 道哉	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	地域産業計画の具体的な取り組みについて理解し、説明できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験： 】 商店街あるいは中心市街地の持つ新たな意味や価値に着目し、具体的事例や国際比較、まちづくり、公共政策など幅広い角度から分析や考察を行うとともに、これからの時代における商店街ないしは中心市街地のありよう、再生に向けたステップを考察する。国際比較の中で日本の商店街、中心市街地の現状を論じ、空き店舗の再生ないしは事業の承継について論じる。商店街ないし中心市街地活性化、あるいは「歩いて楽しめるまち」の実現において重要な役割を果たす公共交通のあり方について論じる。 【SDGs：⑨, ⑩】		
授業計画	① 商店街の復権：コモンズとしての中心市街地再生に向けて（１） ② 商店街の復権：コモンズとしての中心市街地再生に向けて（２） ③ 成長局面からみた商店街再生の実践ステップ（１） ④ 成長局面からみた商店街再生の実践ステップ（２） ⑤ エリアリノベーションと商店街の可能性（１） ⑥ エリアリノベーションと商店街の可能性（２） ⑦ 第１回課題レポート ⑧ コミュニティ的空間としての商店街（１） ⑨ コミュニティ的空間としての商店街（２） ⑩ 商店街復権への取り組み（１） ⑪ 商店街復権への取り組み（２） ⑫ 中心市街地再生と交通まちづくり政策（１） ⑬ 中心市街地再生と交通まちづくり政策（２） ⑭ シャッター通りと耕作放棄地 ⑮ 第２回課題レポート ⑯ 定期試験		
予復習等	予習は、次の授業の該当部分のテキストを読み、内容を要約する。疑問点について調べ、授業時に確認する。１時間が必要とする。復習は、授業時の資料、板書、ノートを読み、テキストの内容を理解する。１時間が必要とする。		
評価方法	【自学科学生の場合】 課題レポート（15点×2回＝30点）、定期試験（70点） 【他学科学生の場合】課題レポート（15点×2回＝30点）、定期試験（70点）		
履修条件			
教 科 書	『商店街の復権－歩いて楽しめるコミュニティ空間』/編著・広井良典/出版・筑摩書房		
参 考 書			

科 目 名	ファッション造形演習Ⅱ Fashion Making Ⅱ	単 位 数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）	科目区分	演習
担 当 者	柴田 佐和子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	デザインに沿った衣服を表現するための知識・技術を習得することを目的とする。これまで学んできたファッションデザイン、衣服造形、色彩の知識・技術をリンクさせ、自らがデザインしたイメージを衣服として作り上げる能力を身につける。また、パターンメイキングや縫製の技術には様々な手法があることから、それらを幅広く知り経験することで、衣服造形技術を向上させることを到達目標とする。		
授業概要	これまで習得した衣服造形の基礎的な知識・技術をもとに、より発展的なデザインの衣服造形を行い、課題を通して造形技術の応用力を習得する。さらに、各自がテーマに基づき、デザインからパターンメイキング、素材選定、裁断、縫製までを行い、平面であるイメージを立体である衣服として表現するための知識・技能を段階的に習得する。 なお、テーマ設定にあたり、特定の条件やアイテムを指定することがある。 【SDGs：4, 9, 12】		
授業計画	① 課題制作(1) 平面製図 ② 課題制作(2) ドレーピング ③ デザイン(1) テーマ設定、情報収集 ④ デザイン(2) デザインチェック ⑤ パターンメイキング(1) ファーストパターン ⑥ パターンメイキング(2) ファーストパターン ⑦ パターンメイキング(3) 仮縫い ⑧ パターンメイキング(4) 試着、補正、パターン修正 ⑨ パターンメイキング(5) プロダクトパターン ⑩ 縫製(1) 裁断、芯貼り ⑪ 縫製(2) 表地 ⑫ 縫製(3) 表地 ⑬ 縫製(4) 裏地 ⑭ 縫製(5) 裏地 ⑮ 縫製(6) 仕上げ ⑯ 着装発表、作品提出		
予復習等	【予習】授業内で提示する資料の精読および関連事項の情報を収集する。 【復習】授業で行った内容について確認を行い、次の授業に備えて課題を進める。		
評価方法	出席状況・受講態度20％、提出作品・その他提出物80％、		
履修条件	製作に必要な材料費(製図用具、生地、副資材等)は受講生の負担とする。		
教 科 書	配布資料		
参 考 書	『文化ファッション大系 服飾造形講座①服飾造形の基礎』／出版：文化出版局、授業内で適宜紹介		

科 目 名	ファッション造形演習Ⅲ Fashion Making Ⅲ	単 位 数	2
		必選区分	FD選択
開講学科	デザイン環境学科（2年後期）	科目区分	演習
担 当 者	柴田 佐和子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ジャケットの制作を通して、より高度な衣服造形技術を習得するとともに、様々なデザインに対応した製図能力を身につけることを目的とする。 ジャケットの 패턴の製図方法や展開について理解し、衣服構成のためのより高度な知		
授業概要	ファッション造形演習Ⅰ・Ⅱで習得した基礎的な知識・技術をもとに、ベーシックな裏付きテーラードジャケットまたはノーカラージャケットを制作する。ジャケットの基本的な身頃構成と2枚袖の製図方法を理解する。さらに、工業生産に対応できるジャケットの 패턴メイキングを理解し、縫い代付きの 패턴、裏身頃の展開方法、芯地の 패턴の作図方法、裁断、合理的な縫製、アイロン操作までを製作を通じて習得する。 【SDGs：4, 9, 12】		
授業計画	① ジャケット(1) ジャケットの構造、基礎知識 ② ジャケット(2) 原型操作、製図、展開、デザイン決定 ③ ジャケット(3) 패턴チェック ④ ジャケット(4) 仮縫い ⑤ ジャケット(5) 仮縫い、試着、補正 ⑥ ジャケット(6) 패턴修正、印・縫い代つけ ⑦ ジャケット(7) 裏地・芯地・パーツ 패턴作成、印・縫い代つけ ⑧ ジャケット(8) 裁断(表地、裏地、芯地) ⑨ ジャケット(9) 芯貼り ⑩ ジャケット(10) 縫製(身頃) ⑪ ジャケット(11) 部分縫い(ポケット) ⑫ ジャケット(12) 縫製(ポケット) ⑬ ジャケット(13) 縫製(袖) ⑭ ジャケット(14) 縫製(衿付け、外回り) ⑮ ジャケット(15) 縫製(ボタンホール、ボタン)、仕上げ ⑯ 着装発表、作品・レポート提出		
予復習等	【予習】教科書、参考書を読み次回の授業内容について予習する。 【復習】授業で行った内容について確認を行い、次の授業に備えて課題を進める。		
評価方法	出席状況・受講態度20％、提出作品・その他提出物80％、		
履修条件	製作に必要な材料費(製図用具、生地、副資材等)は受講生の負担とする。		
教科書	配布資料		
参考書	『文化ファッション大系 服飾造形講座①服飾造形の基礎』／出版：文化出版局、『文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④ジャケット・コート』／出版：文化出版局		

科 目 名	ファッション造形演習Ⅳ Fashion Making Ⅳ	単 位 数	2
		必選区分	FD選択
開講学科	デザイン環境学科（2年後期）	科目区分	演習
担 当 者	福村 愛美	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本の古くから受継がれた、日本特有の伝統的な和服に触れるために単衣（浴衣）の製作を行う。細部の裁寸が必要なく、無駄のない布使い、平面構成の巧みさや手縫いの良さを実習を通して学習する。また、作品を着る事によって、着物の楽しさを味わう。		
授業概要	和服は普段着る機会がほとんどなくなってしまうが、浴衣は夏祭りなどで若者が気軽に着ることができる定番アイテムになっている。大半は既製品で1サイズである。それは体型にフィットしていなくても着付けによって着用できるという昔ながらの知恵でもある。しかしせっかくなのでより自分自身の体型にあったサイズで製作し、着用してほしい。生地の柄から自分に似合うものを探す楽しさ、1針ずつすべて手縫いで作り上げる達成感を味わってほしい。 【SDGs：5, 12】		
授業計画	大裁女物長着の制作（すべて手縫い） □ ① 形および名称 ② 釦寸・地直し ③ 見積もり・見ごろ裁断 ④ 見ごろ印つけ ⑤ 背縫い ⑥ 袖の裁断・印つけ ⑦ 袖縫い ⑧ 肩当て ⑨ 衽裁断・印つけ ⑩ 衽つけ ⑪ 共衿つけ ⑫ 衿つけ ⑬ 脇縫い ⑭ 袖つけ ⑮ 裾くけ ⑯ 仕上げ、畳み方		
予復習等	前回の工程までできていない箇所はやっておくこと。 必要な材料は各自準備してくること。		
評価方法	出席状況・受講態度20％、提出作品・その他提出物80％		
履修条件	ファッション造形演習Ⅰ・Ⅱ単位取得者のみ。製作に必要な材料費(反物、副資材等)は受講生の負担とする。		
教科書	「和服の構成」（東京都私立短期大学協会）酒井書店・育英堂 浴衣地の反物を各自用意		
参考書			

科 目 名	材料管理学 Material Management	単 位 数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）	科目区分	講義
担 当 者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	洗濯などの衣服の適切な取り扱い方法は、ファッション業界において、清潔と耐洗濯性の視点から商品企画、販売、消費者対応などの業務を遂行する上で必要とされている知識である。洗濯や保管などの基礎知を習得することを目的とする。 洗濯の必要性、洗浄理論と洗濯方法、衣服の保管などの衣料管理士として必要となる基礎知識を習得することを目標とする。染色原理の基礎部分についても習得する。		
授業概要	【担当者の実務経験：公設試で衣服管理学に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】 私達の身の周りの日常生活用品のほとんどは、使用することによる汚れの付着、洗浄、仕上げ、保管のくり返しで利用され、汚損、変形、変色、脆化すると破棄される。各種材料が有する当初の良好な性能を長期間維持していくためには、材料の組成、性質を良く知って、適正な管理をしなければならない。私達の衣生活、住生活を飾る繊維製品を中心に、その適正な管理について科学的に学び、機能的、合理的な材料の利用方法を修得する。 【SDGs：6, 9, 12, 14】		
授業計画	① 材料管理学とは／洗濯の絵表示 ② 衣服の汚れ ③ 洗濯用水と洗剤（１） 洗濯用水 ④ 洗濯用水と洗剤（２） 洗剤 ⑤ 洗濯機と洗濯機械力 ⑥ 汚れ除去のメカニズム ⑦ 洗浄力の試験方法 ⑧ 家庭洗濯 ⑨ 商業洗濯（ドライクリーニング・ウェットクリーニング） ⑩ 漂白と増白 ⑪ 糊抜きと仕上げ ⑫ しみ抜き ⑬ 衣類の保管 ⑭ 染色のメカニズム ⑮ 染色物の評価試験方法 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】解説予定の内容について、日常生活での洗濯でどのように行われているかを確認しておく 【復習】毎回配付される資料について、講義中解説した重要項目について復習する。		
評価方法	出席状況・受講態度２０％、期末試験８０％で、総合判定する		
履修条件	なし		
教科書	『衣服管理の科学』／片山倫子 編著／建帛社		
参考書	『衣服管理学』／日本衣料管理協会 『繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版』／榎本雅穂、古濱裕樹編著／アイケイコーポレーション		

科 目 名	テキスタイル素材演習 Textile: Material	単 位 数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）	科目区分	演習
担 当 者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	被服材料に関する基礎知識を、実験を通じて身につけることを目的とする。被服材料に関する試験の原理と正しい測定方法を理解し、繊維材料の基本となる諸性質を理解し、実際の現場で実施・応用ができるようにする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公設試で繊維材料に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】 生活材料学で学んだ内容を基礎にして、身近なテキスタイル素材(織物)の様々な基本的物理性能を、J I S（日本産業規格）に準じて測定する。さらに、その測定値を様々な角度から比較検討して考察し、測定された性能が衣生活の中でどのように生かされ、利用されているかを考える。繊維の種類やその特性、布の種類やその特性を知り、テキスタイル素材の合理的、機能的利用の指針を得るための実験的演習。 【SDGs：9, 12】		
授業計画	① 素材測定の手順説明と試料布の準備 ② 繊維の鑑別試験（１） 顕微鏡による鑑別 ③ 繊維の鑑別試験（２） 燃焼による鑑別 ④ 繊維の鑑別試験（３） 溶解による鑑別 ⑤ 繊維の鑑別試験（４） 呈色による鑑別 ⑥ 糸の特性の評価 番手表示と合糸数・撚り方向 ⑦ 布の構成因子の測定 糸密度測定・組織判別 ⑧ 中間レポートの作成 ⑨ 布の物理特性の測定（１） 引張強度の測定 ⑩ 布の物理特性の測定（２） 引裂強度の測定 ⑪ 布の物理特性の測定（３） 破裂強度の測定 ⑫ 布の風合い性能の測定（１） 剛軟度の測定 ⑬ 布の風合い性能の測定（２） 防しわ性・ブリーツ性の測定 ⑭ 布の保健衛生的性能（１） 吸水性の測定 ⑮ 布の保健衛生的性能（２） 通気性の測定 ⑯ 総合レポートの作成		
予復習等	【予習】実験手順について事前に確認をし、円滑な実験操作を行えるようにしておく 【復習】各回の実験結果について実験レポートを作成する。		
評価方法	出席状況・授業態度を４０％、各実験項目についてのレポート内容を６０％の割合で総合評価。		
履修条件	繊維材料学の内容を十分理解していることが望まれる		
教科書	テキスタイル素材演習の実験手順書を配布し使用する		
参考書	『繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版』／榎本雅穂、古濱裕樹編著／アイケイコーポレーション		

科 目 名	テキスタイル染色演習 Textile: Dyeing	単 位 数	2
開講学科	デザイン環境学科（２年後期）	必選区分	FD必修
担当 者	太田 幸一	科目区分	演習
担当 者	太田 幸一	教員区分	校内教員
授業目的 到達目標	染色や洗濯に関する基礎知識を、実験を通じて身につけることを目的とする。染色・洗濯に関する試験の原理と正しい測定方法を理解し、繊維材料の基本となる諸性質を理解し、実際の現場で実施・応用ができるようにする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公設試で繊維材料に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】 我々の身近な繊維製品は、さまざまな染色加工技術により製造されている。また、日常行っている衣服の管理にも基本となる理論や適切な技術が応用されている。材料管理学ではこれらの基礎となる理論や技術を講義してきたが、本演習では、材料管理学の講義内容に基づいて、アパレル素材の染色・加工特性、堅牢度試験方法や界面活性剤の性質、洗剤の洗浄力などの演習を行う。この演習を通して、アパレル製品に必要とされる性能や被服管理に対する実践性の伴った知識として理解を深める。 【SDGs：6, 9, 12, 14】		
授業計画	① 概要と実験の手順説明 ② 染色実験（１） 細孔径と染料分子径との関係（１）（直接染料・常温染色） ③ 染色実験（２） 細孔径と染料分子径との関係（２）（分散染料・高温高压染色） ④ 染色実験（３） 結合の種類とその強さ（１）（酸性染料・イオン結合） ⑤ 染色実験（４） 結合の種類とその強さ（２）（反応染料・共有結合） ⑥ 染色実験（５） 助剤の効果とアルカリ緩衝作用 ⑦ 染色堅ろう度試験（１）：耐光・洗濯堅ろう度 ⑧ 染色堅ろう度試験（２）：汗・摩擦堅ろう度 ⑨ 界面活性剤の性質（１）：クラフト点と曇天 ⑩ 界面活性剤の性質（２）：可溶化力と乳化力 ⑪ 石鹼の作成と性質 ⑫ 石鹼と洗剤の洗浄性（１）：アルカリ剤の効果 ⑬ 石鹼と洗剤の洗浄性（２）：水軟化剤の効果 ⑭ 市販洗剤の洗浄性と添加剤の効果・洗濯機械力の効果 ⑮ しみ抜き・漂白 ⑯ 試験総合レポートの作成		
予復習等	【予習】実験手順について事前に確認をし、円滑な実験操作を行えるようにしておく 【復習】各実験内容についてレポートを作成する		
評価方法	出席状況・授業態度を４０％、各実験項目についてのレポート内容を６０％の割合で総合評価。		
履修条件	繊維材料学及び材料管理学の内容を十分理解していることが望まれる		
教科書	テキスタイル染色演習の実験手順書を配布し使用する		
参考書	『繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版』／榎本雅穂、古濱裕樹編著／アイケイコーポレーション		

科 目 名	ブランドマーチャンダイジング Brand Merchandising	単 位 数	2
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）[岐阜学関連科目]	必選区分	FD必修
担当 者	下川 美都子	科目区分	演習
担当 者	下川 美都子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ファッションにおける情報収集や分析（マーケティング）から具体的な商品企画（マーチャンダイジング）、さらに、販売促進（プロモーション）など、一貫とした商品化プロセスを、学生が各自の演習をととして理解し、マップに表現していくことを目的とする。また、商品企画においての重要なコンセプト（概念）を把握し、明確なターゲットによる商品企画提案、アイテム（品目）・カラー・スタイル・コーディネートなどの構成、価格設定、さらに、ショップにおける販売計画までを含めたブランド戦略を、学生が習得する到達目標である。		
授業概要	【担当者の実務経験：アパレル企業のブランド・マーチャンダイジングに携わる。マーチャンダイジングの経験あり。】 ファッションマーチャンダイジングは、消費者（需要側）に適正な数量（商品ロット）と価格で、適切な場所と時期において、消費者のニーズに基づいた満足感のある商品を提供する企業活動である。本授業では、学生が各自オリジナルなマイブランドの商品計画を構成し、企画からショップの販売計画まで一貫した商品開発マップを作成する。①②③④⑤では、ブランドの基本となる概念を設定し、⑥⑦⑧では、トレンド情報分析から次シーズン商品計画を決定、さらに、⑨⑩⑪⑫⑬⑭では、月別にストーリーテーマや細分化構成を計画していく。マーチャンダイジングのプロセスを理解し、学生自らの発想でオリジナルなブランド構成マップを作成する。最終⑮でプレゼンテーションを行う【SDGs：12, 13】 【岐阜学関連の授業回：⑨】		
授業計画	① マーチャンダイジングと情報収集の重要性、トレンド分析とシーズン予測 ② ブランドコンセプトとターゲット設定（１） ③ ブランドコンセプトとターゲット設定（２） ④ ブランドイメージ ⑤ 価格帯設定 ⑥ シーズンコンセプト立案 ⑦ シーズン別ストーリーテーマ ⑧ シーズンスタイリング&コーディネート企画 ⑨ シーズン別カラー・素材構成計画 ⑩ シーズン別アイテム構成計画 ⑪ セールスプロモーション VMD計画 ⑫ 原価計算 ⑬ 販売計画 ⑭ シーズン別売り場構成 ⑮ プレゼンテーション ⑯		
予復習等	【予習】マイブランド作成において、新聞・雑誌・情報などを調査し資料を用意すること。 【復習】マイブランド作成では、常に情報の変化などを見直し理解を深めて作成すること。		
評価方法	受講態度20%、提出課題(オリジナルブランドマップ作成)50%、独自性と完成度と意欲30%		
履修条件	衣料管理士必修。一年後期「ファッションマーケティング」を履修しているのが望ましい。		
教科書	プロセスのプリント配布、流行情報誌やコレクションなどの雑誌（MAP用資料）※課題提出指定ファイルは自己負担		
参考書	菅原正博『アパレル・マーチャンダイジング』ファッション教育社		

科 目 名	消費科学 Consumption Science	単 位 数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）	科目区分	講義
担 当 者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	繊維製品の生産から消費に至る分野で活躍するために、繊維製品の品質管理、消費者行動、生産／流通に関する知識を習得することを目的とする。 繊維製品について、（１）消費者が望む品質（２）消費者行動（３）生産・流通・消費の基礎知識について習得する。また、消費者問題の重要性についても習得する。		
授業概要	【担当者の実務経験：公設試で消費者問題に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】 消費科学は、日常生活に関するモノとサービスの生産、流通、消費について、その実態を明らかにするとともに、これらを生活の豊かさに結びつけることを考える科学である。身の回りにあふれる様々な日常生活製品の品質やその管理に関することや、消費者行動について詳しく知することは、モノを生産する立場からも、消費する立場からも大変重要なことである。この講義では日常生活の中で特に繊維製品の消費科学について、消費者保護の観点から解説する 【SDGs：1, 8, 9, 12, 14】		
授業計画	① 消費科学の定義 ② 繊維製品の品質、品質設計と品質管理 ③ 品質の評価と品質保証 ④ 品質表示と安全性 ⑤ 消費者苦情とその原因 ⑥ 消費者苦情の具体的事例 ⑦ 消費者苦情の活用 ⑧ 消費者行動の特徴と要因 ⑨ 消費者調査の種類 ⑩ 消費者調査の分析と具体的事例 ⑪ 繊維製品の生産 ⑫ 繊維製品の流通 ⑬ 繊維製品の消費 ⑭ 地球環境と繊維製品 ⑮ 消費者問題の最新動向(サステナブルと消費科学) ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】解説予定の内容について、日常生活との関連について確認しておく 【復習】毎回配付される資料について、講義中解説した重要項目について復習する。		
評価方法	出席状況・受講態度２０％，期末試験８０％で、総合判定する		
履修条件	なし		
教 科 書	『衣生活のための消費科学』／日本衣料管理協会		
参 考 書	『消費生活論』／日本衣料管理協会、『ファッション商品論』／日本衣料管理協会		

科 目 名	ファッション造形実践演習 Fashion Making Practice	単 位 数	2
		必選区分	FD選択
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）[岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担 当 者	福村 愛美	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ワンピースの製作を通して本格的な婦人服の縫製技術を習得する。岐阜県職業能力開発協会主催の技能検定に向けた、ものづくりマイスターの実技指導の「婦人服の縫製」の技術を修得する。		
授業概要	岐阜県職業能力開発協会主催の技能検定に向けた、ものづくりマイスターの実技指導の講師をお招きして、「婦人服の縫製」を本学で指導してもらう。縫製の細かな技を学ぶ。 【SDGs：12】 【岐阜学関連の授業回：⑤～⑭】		
授業計画	① ワンピース(裏地付)の型紙の作成 ② パーツごとに縫い代付け ③ 表地の裁断 ④ 裏地・芯地の裁断・合印（ノッチ）を付ける ⑤ 身頃の縫製（ロックミシンかけ） ⑥ 芯はり作業（縫う手順やアイロンのかけ方） ⑦ 袖の縫製 ⑧ 衿の縫製 ⑨ 裏地・ベルトの縫製 ⑩ 各パーツを縫い合わせ仕上げる ⑪ 袖・裾の始末・出来上がり寸法を確認させ修正の仕方 ⑫ ボタンホール・ボタン付け・きれいなボタンホールの縫い方、ボタンの付け方 ⑬ 部分縫い（前立て、短冊）・何通りかの短冊の縫い方 ⑭ 部分縫い（袋縫い、折り伏せ縫い、その他） ⑮ ワンピースの完成 ⑯ 着装評価		
予復習等	前回の工程までできていない箇所はやっておくこと。 必要な材料は各自準備してくること。		
評価方法	出席状況・受講態度２０％、提出作品・その他提出物８０％		
履修条件	ファッション造形演習Ⅰ単位取得者のみ。製作に必要な材料費(副資材等)は受講生の負担とする。		
教 科 書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース(文化出版局)、配布資料		
参 考 書			

科 目 名	テキスタイル創造演習 Textile Creation	単 位 数	2
		必選区分	FD選択
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	衣服の企画、設計にあたって、その目的や用途に合った物性、風合い、色柄を備えたテキスタイルを適切に設計選択できるようにすることを目的とする。 ミニチュア織機を用いて簡単な織物の企画設計を行い、製織原理、テキスタイルおける柄出しの原理について習得した後、実際の衣服用の布帛についてデザインを行い、テキスタイルのデザイン技術を習得する。		
授業概要	【担当者の実務経験：公設試で中小企業向けテキスタイルの試作業務に従事】 衣服などの最終製品のデザインでは既存の柄が作られた生地を選択するケースが多いが、衣服デザインでは生地からデザインを行うことがある。生地のデザインでは、糸の種類や色、布の柄組織やパターン、布の染色図案を考えて、布地全体のデザインを行う。この演習では、テキスタイルデザインの基礎となる織物のたて糸、よこ糸の使い方による織柄や、さまざまな組織の変化による織柄の基本について組織図ベースで修得し、実際にミニチュア織機で試作を行う。さらに、衣装制作用のテキスタイルのデザイン手法についても学ぶ。 【SDGs：12】 【岐阜学関連の授業回：⑨～⑮】		
授業計画	① 概要説明および ② ミニチュア織機の使用（１）平織 ③ ミニチュア織機の使用（２）綾織／朱子織 ④ 織物の企画設計 ⑤ 課題作品の制作（１）・織物シミュレーション ⑥ 課題作品の制作（２） ⑦ 課題作品の制作（３） ⑧ 課題作品の制作（４）・仕上げ ⑨ 自由作品の図案・企画設計（１） ⑩ 自由作品の図案・企画設計（２） ⑪ 自由作品の図案・企画設計（３） ⑫ 自由作品の制作（１） ⑬ 自由作品の制作（２） ⑭ 自由作品の制作（３） ⑮ 自由作品の制作（４） ⑯ 自由作品の発表とまとめの講義		
予復習等	【予習】制作作品の図案などについてあらかじめ準備しておくこと 【復習】企画設計通りに作品が制作できているかを確認し、次の作業を計画しておく		
評価方法	出席状況・受講態度４０％、作品の評価６０％で総合判定する		
履修条件	繊維材料学および色彩学を受講しておくことが望ましい。 衣装制作用のテキスタイル作成は別途制作費用が必要となることもある。		
教科書	概要を記したプリントを配布する。織機の使用にあたっては、解説書等を参考にする。		
参考書	『繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版』／榎本雅穂、古濱裕樹編著／アイケイコーポレーション 『ハンドウィービング』／文化出版局		

科 目 名	建築・インテリア設計演習Ⅱ Architecture/Interior Planning Ⅱ	単 位 数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本演習では、建築・インテリア設計演習Ⅰで学んだ設計手法を基に、「みんな」のための建物の計画を行います。新たな建物用途と敷地を設定し、ここでも敷地の見方、情報の集め方、敷地模型の作り方、設計の方法を、ステップを踏んで進めていきます。プレゼンテーションふくめ、卒業研究などに応用できる力をつけていきます。		
授業概要	【担当者の 実務経験：建築事務所住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】 演習課題として、岐阜市の中心市街地に「みんなの施設」を計画します。建築・インテリア設計演習Ⅰより建築面積が大きい不特定多数の利用する建物に取り組みます。中心市街地ならではの車と歩行者の交通、周辺建物、自然環境を読み取り、求められた所要室の関係性を繋ぎながら建物を敷地に計画していきます。 【SDGs：３・４・５・11・12・13・15】 【岐阜学関連の授業回：⑩】		
授業計画	① ガイダンス 課題「みんなの施設」 課題説明 ② 敷地見学 敷地模型づくり ③ 敷地分析 ④ ボリュームスタディ ⑤ ボリュームスタディ ⑥ 機能を考える ⑦ 機能を考える ⑧ 空間の囲み方、支え方を考える ⑨ 空間の囲み方、支え方を考える ⑩ 開口部のスタディ□ ⑪ 開口部のスタディ□ ⑫ 機能を考える ⑬ 機能を考える ⑭ プレゼンテーション ⑮ 講評会 ⑯		
予復習等	【予習】敷地の調査、模型制作、事例調査等、設計を進めるために必要な情報収集 【復習】エスキスチェックにて指摘された箇所の検討。次週までの宿題を進めること		
評価方法	出席状況・受講態度20％、課題80％		
履修条件	建築・インテリア設計演習Ⅰを受講していることが望ましい。課題敷地までの交通費は自己負担。		
教科書	コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編）、初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ（彰国社）		
参考書			

科 目 名	建築・インテリア設計演習Ⅲ Architecture/Interior Planning Ⅲ	単 位 数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（２年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	臼井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	建築・インテリア設計演習Ⅰ・Ⅱで学んだ設計の手順および表現を深めながら、新しい提案とそれらの表現方法を獲得する事を目的とする。 到達目標は、設計により社会と関わるために最低限必要となる、次の3つの能力を養うことである。 ・社会に必要とされるテーマを自ら設定すること。 ・3次元CADを扱えること。 ・図面および立体表現によって、自らの提案を効果的に伝えること。		
授業概要	【担当者の実務経験：公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】 「地域観光のための施設」を扱う。地域の課題を見つけ出し、テーマを設定する。そして、そのテーマを解決する助けになるような根拠を見つけ、設計するための下地を整える。その際に、3次元CADについても扱うことで、考えたアイデアを形として表現するための素養を養う。その後、さまざまなアイデアを企画書としてまとめる。その企画書の内容を具現化するための“美しい”図面表現と、3次元CADによる“魅力的な”立体表現に挑戦する。 【SDGs：11】 【岐阜学関連の授業回：全授業】		
授業計画	① 「地域観光のための施設」ガイダンス、敷地調査 ② テーマの設定 ③ 3次元CAD(基本操作) ④ 3次元CAD(モデリング) ⑤ 3次元CAD(マテリアル) ⑥ 3次元CAD(光の設定) ⑦ 3次元CAD(パース作成の技術) ⑧ 3次元CAD(画像の合成) ⑨ 企画書の作成 ⑩ 設計(豊かな空間を創造する) ⑪ 設計(環境について考える) ⑫ 図面表現 ⑬ 立体表現 ⑭ プレゼンテーション ⑮ 講評会 ⑯		
予復習等	【予習】毎回のテーマについて、エスキスを受ける用意をして授業に臨むこと。 【復習】エスキスでの内容を整理すること。		
評価方法	出席状況・授業態度１５％、課題８５％		
履修条件	学修規程による。		
教 科 書	『コンパクト建築設計資料集成』/日本建築学会学会 / 出版：丸善		
参 考 書	『AutoCADで3D攻略読本』/鳥谷部 真 / 出版：X-Knowledge		

科 目 名	公共施設計画論 Planning of Social Facilities	単 位 数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担 当 者	臼井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	公共施設の計画を行う上で必要となる基礎的な事柄を習得する事を目的とする。 到達目標は、次の3つについて理解し、説明できるようになることである。 ・各ビルディングタイプにおける種類と基本的な構成 ・各ビルディングタイプにおける計画上留意すべき詳細 ・近年の公共施設の課題と社会的傾向		
授業概要	【担当者の実務経験：公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】 本講義において公共施設とは、行政が保有する施設という意味に留まらず、多くの人が活用する公共性の高い施設という意味である。そのためまず、公共性について説明する。ビルディングタイプとしては、学校、図書館、博物館、劇場という教育および文化に関する施設の後に、病院、オフィスを扱う。さらに、近年、人口減少と自治体の財政的理由から公共施設の再編の動きが加速しているため、それらの基本的な傾向について説明する。そして最後に、FM(ファシリティマネジメント)、LCC(ライフサイクルコスト)、コンバージョンなどの公共施設全般に関わる内容を扱う。 【SDGs：11】 【岐阜学関連の授業回：③, ⑤】		
授業計画	① 公共性 ② 学校：種類・構成・詳細 ③ 学校：事例 ④ 図書館：種類・構成・詳細 ⑤ 図書館：事例 ⑥ 博物館：種類・構成・詳細 ⑦ 博物館：事例 ⑧ 劇場：種類・構成・詳細 ⑨ 劇場：事例 ⑩ 病院：種類・構成・詳細 ⑪ 病院：事例 ⑫ オフィス：種類・構成・詳細 ⑬ オフィス：事例 ⑭ 公共施設の再編 ⑮ FM・LCC・コンバージョン ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】毎回のテーマについて、教科書の該当する章を読み、授業に臨むこと。 【復習】配布資料を読み、疑問点を整理すること。		
評価方法	出席状況・授業態度１５％、定期試験８５％		
履修条件	学修規程による。		
教 科 書	『設計に活かす 建築計画』 / 著：内藤和彦ほか / 出版：学芸出版社		
参 考 書	『コンパクト建築設計資料集成』/日本建築学会学会 / 出版：丸善		

科 目 名	一般構造 Architectural Structure	単 位 数	2
		必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（2年前期）	科目区分	講義
担 当 者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、建築物の骨組みとなる建築構造に関する基礎的な知識を施工等を含めた幅広い見地から理解することを目的とする。建築構造は、木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造に大別され、各々を比較することによって、相対的な利点および欠点を把握し、実際の建物において用途や機能的な面からどの構造とすると良いかを判断できるようになることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：総合建設業において建築物の構造設計・監理業務に従事した】 建築物の全般を知るには、その骨組みや仕上げの構造を理解することが重要であり、また、建築材料の特性を知ることによって、より深く理解することが可能となる。本講義では、建築材料の特性に加えその施工法も組入れることにより、建築物に関するより幅広い知識を習得する。なお、構造分野で用いられる独特な用語・名称は、理解し易いよう極力図を用いて講義を行うとともに、実務経験から得た留意すべき点を講義の中で適宜解説する。 【SDGs：9, 11, 12】		
授業計画	① 建築物と地盤・基礎構造 ② 木構造 ③ 鉄筋コンクリート構造（1） ④ 鉄筋コンクリート構造（2） ⑤ 実地見学 ⑥ 壁式鉄筋コンクリート構造 ⑦ 鉄骨構造（1） ⑧ 鉄骨構造（2） ⑨ 鉄骨鉄筋コンクリート構造 ⑩ 組積造・補強コンクリートブロック造 ⑪ 屋根 ⑫ 階段・天井 ⑬ 壁体仕上 ⑭ 床仕上 ⑮ 開口部・建具 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】教科書の該当するページを図・表を中心にあらかじめ見ておくこと。 【復習】板書した内容で専門用語などは図・表と一緒に覚えること。		
評価方法	出席状況・授業態度20％、定期試験80％		
履修条件	なし		
教科書	共立出版株式会社 江上外人・林静雄著 「分り易く図で学ぶ建築一般構造 第2版」		
参考書	丸善出版 日本建築学会編 「構造用教材 改訂第3版」		

科 目 名	構造力学 Structural Mechanics	単 位 数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（2年前期）	科目区分	講義
担 当 者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、建築構造物の安全性を確保するための基本となる構造力学について、その基礎知識を習得することを目的とする。静定構造物においては、支点反力、部材に生じる断面力（軸力、せん断力、曲げモーメント）および静定トラスの軸力を計算できるようになることを目標とする。また、2年生後期に学ぶ構造計画で扱う構造設計に繋がるよう理解することを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：総合建設業において建築物の構造設計・監理業務に従事した】 建築構造物の安全性は構造設計により確認されるが、構造力学は、その数値的根拠のベースとなり建築分野において非常に重要な学問である。本講義では、建築構造の概念、実務で扱われる構造設計の概要を理解し、次いで、構造力学の考え方の基礎を学ぶ。なお、本講義においては、極力分かりやすくするため、概念的な図を多用し、構造力学の本質的な意味の理解を深めることを念頭に置く。実務経験から得た留意すべき点を講義の中で適宜解説する。 【SDGs：11】		
授業計画	① 建築構造とは ② 構造設計法の概要 ③ 力とモーメント ④ 力の合成と分解 ⑤ 力のつりあいと力のつりあい式 ⑥ 静定構造物 ⑦ 支点反力 ⑧ 断面力の算定（単純梁） ⑨ 断面力の算定（門型ラーメン） ⑩ 静定トラス構造物（節点つり合い法） ⑪ 静定トラス構造物（リッターの切斷法） ⑫ 断面の応力度および断面の性質 ⑬ 不静定構造の基礎 ⑭ たわみ角法（不静定） ⑮ 固定モーメント法（不静定） ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】教科書の図・表に書かれている概念・定義をあらかじめ見ておくこと。 【復習】講義で扱った例題を自身で解けるようにしておくこと。		
評価方法	出席状況・授業態度20％、定期試験80％		
履修条件	なし		
教科書	市ケ谷出版社 元結正次郎・大塚貴弘著 「初学者の建築講座 建築構造力学（新版）」		
参考書	なし		

科 目 名	構造力学演習 Experiment s in Structural Mechanics	単 位 数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（2年後期）	科目区分	演習
担 当 者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、構造力学で学んだ知識に関連した各種の構造実験を行い、構造力学等で学習した建築構造に関する基礎的な理論と実現象との整合を確かめることにより、その理解を深めることを目的とする。実験で得られた値と理論値には、少なからず差が生じるが、合う合わないが重要ではなく、なぜ違いが生じたのかを考える（考察する）ことが重要である。世の中にある構造物において、どのような力が働きつり合いを保っているかの判断ができるようになることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：総合建設業において建築物の構造設計・監理業務に従事した】 構造力学の講義では、建築構造物の安全性を確保するための基礎知識を概念のおよび数値的に習得するが、本講義では、構造実験によって得られた結果と既に修得した計算方法から得られた計算値を比較検証し、体験的に実感することによって、その理解を更に深めるものである。実務経験から得た留意すべき点を講義の中で適宜解説する。 【SDGs：9, 11, 12】		
授業計画	① 力の体感（力の合成・分解の理解） ② 折板構造（せいの大きさ（断面性能）の理解） ③ 力の釣合い（平行力の釣合いの理解） ④ 力と変形（フックの法則の理解） ⑤ 部材にかかる力（応力（$N \cdot Q \cdot M$）の理解） ⑥ 座屈（座屈現象・座屈荷重の理解） ⑦ 単純梁（単純梁のしくみの理解） ⑧ 耐力壁付きラーメン構造（面材の効果の理解） ⑨ ケーブル構造（張力による示力図の理解） ⑩ アーチ構造（力の伝達の理解） ⑪ トラス構造（圧縮材・引張材の理解） ⑫ 橋梁耐力・デザインコンテスト（課題提示） ⑬ 橋梁耐力・デザインコンテスト（試作・設計） ⑭ 橋梁耐力・デザインコンテスト（本制作） ⑮ 橋梁耐力・デザインコンテスト（載荷実験） ⑯		
予復習等	【予習】教科書の実験の手順をあらかじめ見ておくこと。 【復習】考察の項目をよく読み実験レポートを提出すること。		
評価方法	出席状況・授業態度40％、レポート等提出物60％		
履修条件	なし		
教 科 書	丸善出版 日本建築学会編 「はじめてまなぶ ちからとかたち」		
参 考 書	なし		

科 目 名	構造計画 Structural Design	単 位 数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（2年前期）	科目区分	講義
担 当 者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、建築物の構造計画および構造設計の基本的な知識・考え方を習得することを目的とする。特にその基本となるのは、鉄筋コンクリート造においては梁の主筋の求め方であり、これを習得することによってスラブや階段など、どの鉄筋（主筋）も求めることが可能となる。また、鉄骨造においては梁の断面の求め方が基本となる。両者とも教科書を見なくても計算できるように、実践的な力を身に付けることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：総合建設業において建築物の構造設計・監理業務に従事した】 安全な建築物を設計する上では、構造種別に対応した部材・スパン等の常識的な寸法の知識に加え、その設計法を理解することが重要である。本講義では、構造設計の流れを把握し、構造力学で学習した知識を更に発展させる。構造部材の設計法の基礎を習得し、建築構造に関する計画・設計の本質を理解する。具体的に構造設計を試みることにより、構造材料の特性やその役割について更に理解を深める。実務経験から得た留意すべき点を講義の中で適宜解説する。 【SDGs：9, 11, 12】		
授業計画	① 構造計画概要 ② 基礎となる物理学 ③ 構造設計の流れ（1次設計） ④ 構造設計の流れ（2次設計） ⑤ 荷重1（固定荷重・積載荷重） ⑥ 荷重2（積雪荷重・風圧力） ⑦ 荷重3（地震力） ⑧ 鉄筋コンクリート構造（梁1） ⑨ 鉄筋コンクリート構造（梁2） ⑩ 鉄筋コンクリート構造（せん断・床） ⑪ 鉄骨構造（梁） ⑫ 鉄骨構造（柱1） ⑬ 鉄骨構造（柱2） ⑭ 2次設計（層間変形角・偏心率・剛性率） ⑮ 2次設計（保有水平耐力） ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】教科書の計算の手順をあらかじめ見ておくこと。 【復習】講義で解いた例題を自身で解けるように繰り返し練習すること。		
評価方法	出席状況・授業態度20％、定期試験80％		
履修条件	なし		
教 科 書	学芸出版社 浅野清昭著 「改訂版 図説 やさしい構造設計」		
参 考 書	なし		

科 目 名	バイオクライマティックデザイン Bioclimatic design	単 位 数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（2年後期）[岐阜学関連科目]	科目区分	講義
担 当 者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	現在人間が排出するCO2の1/3は建築部門からと言われている。脱炭素社会にむけて、ZEH, ZEBはもちろんのこと、その地域の自然に合致し、地球環境を維持できる、人間に快適かつ喜びを与えるデザイン行ことが重要となってくる。本講義では、地域の気候を読み、特性をみつける体験を行う。この手法を理解することにより、その土地の自然エネルギーを活用した建築をつくる手法を理解した人材を育成することを目標とする。		
授業概要	【担当者の 実務経験：日独建築事務所で住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】バイオクライマティックデザインについて理解を行ったあと、身近な環境を題材に、気候、光、熱、環境、人間、エネルギーについて取り上げる。みつける・つくる建築環境では、学内を拠点として、身近な環境を観察し、設計・計画への反映方法について学習する。さらに、担当者が南ドイツで学んだパウビオロジーの思考、事例を紹介する。バイオクライマティックの理解には、体験をすることが重要であるため、実際に建物に訪れて、空間体験や観察を行う。 【SDGs：4・5・11・12・13・15】 【岐阜学関連の授業回：⑩】		
授業計画	① バイオクライマティックとは ② 目で見える建築環境 ③ 目で見える建築環境 ④ 目で見える建築環境 ⑤ みつける・つくる建築環境 ⑥ みつける・つくる建築環境 ⑦ みつける・つくる建築環境 ⑧ みつける・つくる建築環境 ⑨ みつける・つくる建築環境 ⑩ ドイツ・パウビオロジーについて ⑪ 見学 ⑫ 見学 ⑬ バイオクライマティックデザイン事例研究 ⑭ バイオクライマティックデザイン事例研究 ⑮ レポート		
予復習等	【予習】授業で実施する範囲の教科書を読んでおくこと。 【復習】授業で理解できなかった箇所を教科書、文献・ウェブサイト等で調べておくこと。		
評価方法	出席状況・授業態度３０％、課題７０％		
履修条件	見学の交通費、入場料は各自負担		
教 科 書	設計のための建築環境学 第2版 みつける・つくるバイオクライマティックデザイン/日本建築学会/彰国社第2版		
参 考 書			

科 目 名	施工と生産システム演習 Construction and Product Process	単 位 数	2
		必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（2年前期）	科目区分	講義
担 当 者	岩田 信吾	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生が建築物の生産システムのしくみや建築物の着工から完成に至るまでの具体的な施工技術を習得することを目的とする。技術面のみならず建築施工の目的、安全性および関係法令の建築基準法や労働安全衛生法を理解し、習得した生産システムの知識を設計やデザインに活用できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公共建築物の設計、施工監理に現役で従事している講師が担当】 座学においては、実際の施工技術詳細のほか、建築生産概論として建設業をとりまく現状の問題点や将来性、契約の流れ、工程計画の作成手法など、施工前に留意すべき内容について解説する。なお講義では教科書のほか、パワーポイントや配布資料を使用する。 現場研修は、躯体や仕上げの工事現場、完成後の建築物にて行う。実際の施工を自身の眼で見て学ぶ研修である。その際、工事の設計、監理、施工の担当者から直接、事業説明や採用技術についての解説を聞くことにより、座学で学んだ知識を深め、その定着を図る。なお、現場研修の回数や時期は、研修現場の工事進捗状況により変更される場合がある。 【SDGs：8, 9】		
授業計画	① オリエンテーション ② 建築生産概論、施工者の決定と請負契約 ③ 施工計画と施工管理 ④ 仮設と機械・地下工事 ⑤ 躯体工事（１）（鉄筋工事・型枠工事） ⑥ 躯体工事（２）（コンクリート工事） ⑦ 躯体工事（３）（鉄骨工事） ⑧ 仕上工事（１）（CB工事・ALC工事・石工事・タイル工事） ⑨ 仕上工事（２）（防水工事・屋根工事・左官工事） ⑩ 仕上工事（３）（木工事・カーテンウォール・金属製建具工事・ガラス工事） ⑪ 仕上工事（４）（塗装工事・内装工事） ⑫ 現場研修（躯体又は仕上工事） ⑬ 同上 ⑭ 改修工事・解体工事 ⑮ 安全と環境問題・積算と見積り ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各回のテーマについて教科書を読んでおくこと。 【復習】配布資料や教科書について疑問に感じたことを調べ、理解を深めること。		
評価方法	出席状況・授業態度３０％、レポート・小テスト１０％、定期試験６０％		
履修条件	学修規程による。		
教 科 書	『建築生産』／編：井畑耕三／出版：オーム社		
参 考 書	なし		

科 目 名	建築法規 Building Law	単 位 数	2
		必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（2年前期）	科目区分	講義
担 当 者	白井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	学生が建築基準法及び関連する法令について知り、また理解して、建築物をデザイン・設計することができるようになることを目的とする。 建築基準法で定められている基準、規則等について学ぶことによって、建築基準法の果たす役割を理解し、安全で住みよいまちづくりのために、建築物がどうあるべきかを考えながら、より実践的なデザイン・設計ができるようになることを到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】 建築基準法は、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定めて、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的としている。本講義では、建築物をデザイン・設計するうえで必要となる建築基準法及び建築基準関係法令について学ぶ。 授業計画①②では、法令の体系や条文の読み方のルールについて講義する。③～⑭にて、建築基準法等における建築物の基準、総則等について、理解・習得しやすいよう、図や建築物の実例写真を使用しながら視覚的に解説し、⑮で、より理解を深めるために小テスト形式の総復習を行う。なお、③～⑭の順序については変更する場合がある。 【SDGs：11】		
授業計画	① 法令の体系、建築基準法の歴史 ② 法令集の読み方、建築基準法の改正 ③ 総則（1）用語の定義 ④ 総則（2）面積・高さの算定、確認申請などの手続き ⑤ 単体規定（1）構造と規模、防火区画、特殊建築物 ⑥ 単体規定（2）居室の採光・換気、階段 ⑦ 単体規定（3）廊下、避難階段、出入り口 ⑧ 単体規定（4）排煙設備、非常用照明装置、内装制限 ⑨ 単体規定（5）構造強度 ⑩ 集団規定（1）道路、用途制限 ⑪ 集団規定（2）建ぺい率、容積率 ⑫ 集団規定（3）高さ制限 ⑬ 集団規定（4）防火地域、雑則 ⑭ その他の建築法規 建築士法、バリアフリー法 ⑮ 演習問題 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】教科書の該当ページを読んでおくこと。 【復習】授業中に習得・理解できなかったところを復習すること。		
評価方法	出席状況及び授業態度：30％、定期試験：70％		
履修条件	なし		
教科書	『図説 やさしい建築法規』／今村仁美ほか／学芸出版社		
参考書	『基本建築関係法令集 令和5年版』／発行（株）井上書院		

科 目 名	測量演習 Surveying Practice	単 位 数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（2年後期）	科目区分	演習
担 当 者	山田 英樹	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生が現地測量から図面作成までの過程を繰り返し作業する中で、測量によってできることを実感し、測量の意義や可能性、制度などについて理解することを目的とする。 また、測量機器の操作方法や、測量で取得したデータを整理するための方法、図面を作成して面積を算出する方法などを学び、現地作業から図面作成までを1人で行えるようになる事で、「ものづくり」に関わる専門的な能力の一端を習得することを到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：建設現場等にて測量作業の業務に従事した経験あり。】 測量とは、地球表面上の点の関係位置を決めるための技術・作業の総称であり、地図の作成、土地の位置・状態調査などを行うものである。 本演習においては、測量の目的や種類に応じ、大学構内やその周辺、公園、堤防など屋外にて測量機器を用いて計測を行い、そこから得た結果を基に図面等を作成する。これらの作業を測量の種類ごとに繰り返し実践することで、基本的な測量技術を習得する。 なお、演習順序及び内容については、天候等の理由により変更する場合がある。 【SDGs：4, 9, 11】		
授業計画	① 測量の概要 ② 距離測量（1） ③ 距離測量（2） ④ トラバース測量（1） ⑤ トラバース測量（2） ⑥ トラバース測量（3） ⑦ 水準測量（1） ⑧ 水準測量（2） ⑨ 水準測量（3） ⑩ 横断測量（1） ⑪ 横断測量（2） ⑫ トラバース測量（4） ⑬ 平板測量 ⑭ 実技試験 ⑮ 試験 ⑯		
予復習等	【予習】各回の内容について教科書を読んでおくこと。 【復習】配布資料や教科書で測量機器の操作手順等を確認し、理解を深めること。		
評価方法	出席状況・授業態度40％ 演習成果（図面等）・実技試験30％ 試験・レポート30％		
履修条件	学修規定による。		
教科書	『新版 測量学（上）』／著：丸安隆和／出版：コロナ社		
参考書	適宜、資料を配布		

科 目 名	インテリアデザイン演習 Interior Design	単 位 数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）	科目区分	演習
担 当 者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	建物や空間を表現する手法には、一般に平面図、立面図等の二次元の図面が用いられる。設計者と施工者の間では、図面が設計の意図を正確に伝える重要な媒体となる。一方、クライアントや事業主などの建築のプロではない人にも、そのイメージをわかりやすく伝える手段として、パースや模型といった三次元の表現も活用される。本演習では、パースベクトイプの作図および模型制作を通して、建築物の内観および外観の二次元および三次元の表現方法を修得する。一連の演習によってインテリアデザインに対する見識を深め、計画力を磨く。		
授業概要	図面表現の演習と店舗のインテリアデザインの計画・設計を行う。 建築・インテリアの図面表現として一点透視図、二点透視図、アイソメトリック図、アクソノメトリック図および展開図の書き方を演習する。一点・二点透視図およびアイソメ・アクソメにより、図法に基づいた三次元表現を習得する。展開図により、インテリアの図面表現を習得する。 店舗のインテリアデザインでは、極小店舗「ゆめのお店」の計画を行う。インテリアディスプレイの提案を行い、模型および図面表現を用いてプレゼンテーションを行う。小さな空間提案を行うことにより、身体スケール感覚を養う。 【SDGs：11, 12】		
授業計画	① 建築・インテリアの表現、アイソメトリック図とアクソノメトリック図 ② 一点透視図（１）練習、 店舗インテリア（１）コンセプトとブロックプラン ③ 一点透視図（２）線画、 店舗インテリア（２）エスキスチェック ④ 二点透視図（１）練習、 店舗インテリア（３）プランニング ⑤ 二点透視図（２）線画、 店舗インテリア（４）エスキスチェック ⑥ 一点透視図（３）トレースと着色 ⑦ 二点透視図（３）トレースと着色 ⑧ 透視図の着色チェック ⑨ 透視図の講評会 ⑩ 店舗インテリア（５）製図（平面図・展開図・透視図）、模型制作 ⑪ 店舗インテリア（６）平面図・展開図の下書きチェック、模型制作 ⑫ 店舗インテリア（７）透視図の下書きチェック、模型制作 ⑬ 店舗インテリア（８）プレゼン図面のレイアウトチェック、模型制作 ⑭ 店舗インテリア（９）模型チェック、プレゼン図面の清書 ⑮ 店舗インテリア（10）プレゼン図面のチェック、模型の修正 ⑯ 店舗インテリアの講評会		
予復習等	【予習】 インテリア計画に必要な資料集めを行う。 【復習】 提出締切までに完成するよう、授業外での仕上げ作業を計画的に行う。		
評価方法	出席状況・授業態度２０％、提出課題８０％		
履修条件	制作に必要な材料費等は各自で負担		
教科書	適宜、資料を配布		
参考書	秀和システム「スケッチパース ツボとコツ」 宮後 浩著		

科 目 名	グラフィックデザインⅡ Graphic Design Ⅱ	単 位 数	2
		必選区分	VD必修
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）	科目区分	演習
担 当 者	宮川 友子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、実社会におけるデザイン制作を想定した複数の課題を設定し、課題制作への取り組みを通じてグラフィックデザイン領域の高度で実践的な専門能力を習得することを目的とする。コンセプト立案やアイディアスケッチ、プロトタイピング、フィニッシュワークなどデザインに関する基本的能力の向上に加えて、それらの工程の把握と自己管理、デザインワークにおける調査・発想・表現・訴求の一連の手順を体験することで、デザインの社会における役割への理解を深め、デザインに関する総合的な能力の向上を目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィックデザイン業務の従事経験あり】 この授業では、実社会におけるデザイン制作を想定した課題テーマとして、ポスターデザインとインフォグラフィックの２テーマを設定し、実務経験にもとづいた実践的な指導を行う。ポスターデザインの課題では、提示された内容の本質を分析して訴求性を備えたヴィジュアルとして表現する能力を培う。インフォグラフィックの課題では、調査で得られたデータを情報伝達の観点から効果的にヴィジュアライズする方法について学び、情報デザインにおける視覚表現の役割や位置づけについて理解を深める。今までのグラフィックデザインの授業で習得したタイポグラフィや、絵文字等による非言語コミュニケーションの知識・技術を用い、より豊かな視覚表現について学習する。 【SDGs：9, 12, 17】		
授業計画	① ポスターデザイン：キャッチコピー立案 ② ポスターデザイン：コンセプト・アイディア立案 ③ ポスターデザイン：ラフ制作 ④ ポスターデザイン：ブレ制作 ⑤ ポスターデザイン：ブレ制作 ⑥ ポスターデザイン：本制作 ⑦ ポスターデザイン：本制作 ⑧ ポスターデザイン：成果発表 ⑨ インフォグラフィック：コンテンツ調査 ⑩ インフォグラフィック：コンセプト・アイディア立案 ⑪ インフォグラフィック：ラフ制作 ⑫ インフォグラフィック：ブレ制作 ⑬ インフォグラフィック：本制作 ⑭ インフォグラフィック：本制作 ⑮ インフォグラフィック：成果発表 ⑯		
予復習等	【予習】 授業で取り上げる課題テーマについて、あらかじめ先行事例の調査を行っておくこと。 【復習】 工程ごとに制作過程を振り返ること。		
評価方法	提出物８０％、発表・プレゼンテーション１０％、出席状況・受講態度１０％		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	授業内で適時紹介する。		

科 目 名	グラフィックデザインⅢ Graphic Design Ⅲ	単 位 数	2
開講学科	デザイン環境学科（２年後期）[岐阜学関連科目]	必選区分	VD必修
担 当 者	宮川 友子	科目区分	演習
担 当 者	宮川 友子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	グラフィックデザイン領域の専門教育科目の総仕上げとし、今までに習得した知識・技術を用いてより実社会に即したデザインができることを目標とする。学生個々のデザイン能力の向上はもとより、チーム体制でのデザインワークの実施を通じて、プロジェクト遂行にあたって必要なコミュニケーション能力や、チームにおける各々の役割に応じたワークマネジメント能力、チーム運営能力の習得を目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィックデザイン業務の従事経験あり】 実務においては、ものを作る過程でデザイナー個人が全ての工程を担当することはなく、ほとんどの場合チーム内での役割分担がありデザイナーはその専門領域を担当する。この授業では、仮想組織のVI（Visual Identity）デザインおよびアプリケーションアイテムのデザイン制作を通じて、企業等のチーム内におけるデザイナーのスタンスをリアルに体感し、個々による課題解決とチームによる課題解決の両面の手法を身につける。また、ユニバーサルデザインの観点から、誤解が少なくより多くの方にやさしいデザインを心がけて制作する。 【SDGs：9, 12, 17】 【岐阜学関連の授業回：①～⑧】		
授業計画	① 授業概説、課題提示 ② デザインワーク／個人：コンセプト・アイディア立案 ③ デザインワーク／個人：ラフ制作 ④ デザインワーク／個人：プレ制作 ⑤ デザインワーク／個人：本制作、成果発表 ⑥ デザインワーク／チーム：包括的コンセプト策定、制作コンテンツ検討 ⑦ デザインワーク／チーム：ラフ制作（１） ⑧ デザインワーク／チーム：第１回中間発表 ⑨ デザインワーク／チーム：プレ制作（１） ⑩ デザインワーク／チーム：プレ制作（２） ⑪ デザインワーク／チーム：第２回中間発表 ⑫ デザインワーク／チーム：本制作（１） ⑬ デザインワーク／チーム：本制作（２） ⑭ デザインワーク／チーム：本制作（３） ⑮ デザインワーク／チーム：成果発表 ⑯		
予復習等	【予習】授業で取り上げる課題テーマについて、あらかじめ先行事例の調査を行っておくこと。【復習】工程ごとに制作過程を振り返ること。		
評価方法	提出物８０％、発表・プレゼンテーション１０％、出席状況・受講態度１０％		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	授業内で適時紹介する。		

科 目 名	映像表現（実写） Theory of Video Image	単 位 数	2
開講学科	デザイン環境学科（２年後期）	必選区分	VD選択
担 当 者	山田 聡	科目区分	講義
担 当 者	山田 聡	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生が映像の仕組みを学び、撮影方法や編集方法などの実写映像に関する基礎的な知識と技術を習得することを目的とする。計画（絵コンテ）、撮影（カメラ・三脚）、編集（アプリケーション）、公開といった一連の制作プロセスを踏まえて、映像メディアを用いた表現の特性や可能性を知り、作品制作で活用できる表現力を身につける。		
授業概要	【担当者の実務経験：フリーランスとして映像制作業務の経験あり】 近年、スマートフォンで簡単に映像が見られるようになったり、撮影や編集、ライブ配信までできるようになるなど、映像はより身近になってきている。 この科目では、映像の構造を理論及び制作を通して理解し、映像の背後にある技術を知り、カメラやレンズなどの道具が変わっても使える共通の技術を身につける。 また、PCの映像編集アプリケーションを使用した編集の基礎技術も習得する。映像作品の計画、撮影、編集、公開といった一連のプロセスを課題を通して体験する。 【SDGs：4】 【岐阜学関連の授業回： 】		
授業計画	① はじめに（授業の内容の把握、映像はなぜ動いて見えるのか、どういう技術なのか） ② 映像のみで何かを伝える（スマートフォンでの撮影） ③ 映像のみで何かを伝える（Premiere Pro使い方） ④ 映像のみで何かを伝える（Premiere Pro使い方） ⑤ カメラの基礎（F値、シャッタースピード、iso） ⑥ 編集の基礎（エフェクト、モンタージュ理論） ⑦ インタビュー（グリーンバック撮影、音声の編集） ⑧ インタビュー（音と映像の同期、マスク、キーイング） ⑨ インタビュー（編集） ⑩ インタビュー（編集、講評） ⑪ 課題制作（アイディア出し、絵コンテ制作） ⑫ 課題制作（撮影） ⑬ 課題制作（編集） ⑭ 課題制作（編集、書き出し、アップロード） ⑮ 課題講評（プレゼンテーション、まとめ） ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】身近にある映像作品を、制作者としての意識を持って鑑賞しておくこと。【復習】各回の内容を復習し理解し、課題がある場合は期限までに提出すること。		
評価方法	【自学科学生の場合】 出席率・授業態度（40%）、課題（60%） 【他学科学生の場合】		
履修条件	なし。		
教科書	なし。スライドを共有する。		
参考書	なし。		

科 目 名	映像表現（アニメーション） Theory of Animated Cartoon	単 位 数	2
		必選区分	VD選択
開講学科	デザイン環境学科（2年後期）	科目区分	講義
担 当 者	宮川 友子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	アニメーション表現は今日の広告媒体やデジタルコンテンツにおいて、ユーザの興味を惹き、情報伝達に優れた表現手段として知られる。本授業では連続した平面表現を通したアニメーション表現の習得と、カメラワークや視覚効果の理解を目的とする。参考作品の鑑賞や講義を通してアニメーション表現の歴史的変遷を理解し、目的に応じた表現に应用する能力を身につける。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィックデザイン業務の従事経験あり】 授業では、まず映像に用いられる視覚効果やアニメーションの制作方法などについて講義を行う。 そして「人物の歩行」など、基本的な動作を絵をつなぎ合わせてアニメーションとして表現するトレーニングを行う。その後、エスキースや絵コンテ制作を経て、テーマに応じた短編アニメーション作品を制作する。授業内では参考作品の鑑賞をし、用いられている工夫や視覚効果などをレポートすることを通して観察眼を養う。 【SDGs：8, 9】		
授業計画	① イントロダクション、ソーマトローブの制作 ② アニメーション歴史、その特性と役割 ③ 平面的な動きの表現、立体的な動きの表現 ④ カメラワーク、視覚効果 ⑤ 背景等を含めた総合的な動き ⑥ 短編ストップモーションアニメ制作（1） ⑦ 短編ストップモーションアニメ制作（2） ⑧ 短編ストップモーションアニメ制作（3） ⑨ 短編ストップモーションアニメ制作 講評会 ⑩ 近年のアニメーションの動向と制作手法 ⑪ 動画像の編集方法：Adobe After Effects ⑫ 短編映像の制作：企画・絵コンテ制作 ⑬ 短編映像の制作：制作（1） ⑭ 短編映像の制作：制作（2） ⑮ 短編映像の制作：制作（3）総評 ⑯		
予復習等	【予習】授業内で提示する参考書の精読、参考作品の鑑賞など 【復習】授業配布資料などの復習		
評価方法	作品提出による評価：50%、出席・レポート・プレゼンテーション：50%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	授業内で適時紹介する。		

科 目 名	イラストレーションⅡ Illustration Ⅱ	単 位 数	2
		必選区分	VD必修
開講学科	デザイン環境学科（2年前期）	科目区分	演習
担 当 者	宮川 友子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	学生がデザイン業界や他の一般的な企業でデザイン業務を行うこととなった際に多く求められるイラストレーションの技術・表現において必要な、様々なイラストレーションの技法や描写について創作しながら演習形式で学ぶ。与えられた条件を満たす作品に取り組み中で自分らしさを見つけることができる。広く世界の、また仲間の作品を鑑賞することでさらに視野を広げることができる。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィックデザイン業務の従事経験あり】 現代日本においてヴィジュアルなコミュニケーション、中でもイラストレーションは若者を中心として全年齢に強い訴求力を持ち、実際に求められるものである。グラフィックデザインや版画に近い多色刷りの考え方、人物の動きをもった全身の描写、社会への批判的な目を持つ隠喩的な風刺、若者の共感を得られる現代的なイラストレーションについて、また書籍の仕組みとその装飾としてのイラストレーションについて演習形式で学ぶ。 【SDGs：5, 16】		
授業計画	① 線と面のドローイング① ② 線と面のドローイング② ③ 動きのある人物の描写① ④ 動きのある人物の描写② ⑤ 動きのある人物の描写③ ⑥ 中間発表会、講評① ⑦ モノトーンによる風刺画① ⑧ モノトーンによる風刺画② ⑨ 情緒的なイラストレーション① ⑩ 情緒的なイラストレーション② ⑪ 中間発表会、講評② ⑫ 書籍の表紙と挿絵① ⑬ 書籍の表紙と挿絵② ⑭ 書籍の表紙と挿絵③ ⑮ 最終発表会、講評 ⑯		
予復習等	【予習】授業の準備として指定されたものを調べたり用意する。 【復習】課題作品を期日までに完成させる。学んだことについてさらに自分なりに調査・収集する。		
評価方法	課題作品：90%、受講態度：10%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	「Visual Design イラストレーション Vol 3」、「ILLUSTRATION 2022」、「谷川俊太郎 詩と絵本の世界」ほか		

科 目 名	絵本・イラストレーション Picture Book and Illustration	単 位 数	2
開講学科	デザイン環境学科（2年後期）	必選区分	VD選択
担当 者	金田 典子	科目区分	演習
		教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	コンセプトに基づいて様々な絵本を分析しながら情報収集をし、物語の表現方法やオリジナリティを追求してゆきます。鑑賞・講評では作者が絵本のプレゼンテーションを行い、絵本について分析レポートを作成します。普段の生活の中でも常に五感を研ぎすまし、様々な物事に関心を持ってください。新旧問わず素敵な絵本、面白い絵本を手に取り、絵、テキスト、企画、編集、ページ構成、製本等について学び、物語を表現するための各種技法を習得します。自己の感性を磨きながら独創的な表現、あなたの世界観を生かした絵本を作ります。		
授業概要	【担当者の実務経験：途上国への絵本支援活動、読み聞かせボランティア主催】 一枚のイラストレーションとしての完成度だけではなく、画面構成・ストーリー 展開・イラストの世界観を大切に、作品に適した表現方法、画材等を研究します。また、市販の絵本の表現方法を分析し・製本方法を学びます。ミニ絵本、課題絵本を通してストーリー展開、作画のトレーニングを重ねながら個々の個性を生かしたオリジナル絵本を制作します。 【SDGs：4, 10, 16】		
授業計画	① イントロダクション「絵本」について 作り方(1)市販の絵本の表現方法・製本方法を学ぶ ② (1) ミニ絵本 指定されたストーリーにそれぞれが作画し、彩色する。絵コンテ制作 ③ (2)ミニ絵本 (1)で制作した絵コンテをもとに作画制作、完成、製本 ④ ダミー絵本の制作（1）：課題テーマSDGs絵本作成（10ページ）企画、構成、ラフ制作 ⑤ ダミー絵本の制作（2）：SDGsについてコンセプト、表現方法、サムネイル、絵本制作 ⑥ ダミー絵本の制作（3）：課題について意見交換、企画、構成、絵本制作、製本について ⑦ ダミー絵本の制作（4）：プレゼンテーション／講評、資料収集（校外研修の場合もあり） ⑧ 絵本の制作：企画、構成、表現方法の検討、サムネイル、イメージスケッチ ⑨ 絵本の制作（1）：企画、構成、ラフ制作、テキストのチェック ⑩ 絵本の制作（2）：企画、構成、編集、（進捗状況に合わせて作画ページ、画材の検討会） ⑪ 絵本の制作（3）：原画制作 ⑫ 絵本の制作（4）：原画制作（進捗状況に合わせて作画ページ、画材の検討会②） ⑬ 絵本の制作（5）：原画制作 ⑭ 絵本の制作（6）：製本について② ⑮ 絵本の制作（7）：印刷、製本 ⑯ 定期試験 プレゼンテーション、講評		
予復習等	【予習】作り手側として多くの絵本を手に取り、市販の絵本のランキング、販売傾向、展示方法等のマーケットリサーチをしながら分析し、様々な絵本の表現方法を調査しましょう。 【復習】授業の到達目標を達成するために課外での制作も必要です。		
評価方法	制作プロセス（ラフスケッチやダミー制作）30％、作品に対する評価40％、授業内容に対する理解とプレゼンテーション30％		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		

科 目 名	ビジュアルデータサイエンス Visual Data Science	単 位 数	2
開講学科	デザイン環境学科（2年前期）	必選区分	VD選択
担当 者	神谷 勇毅	科目区分	講義
		教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	伝わるデザイン、伝えるデザインは何から生じるか、デザイナー当人が「良い」と思いデザインを行っても、時に残念ながらデザインとして好まれない場合も生じる。 本授業では、1年次に学んだデータサイエンス（DS）系の知識を基とし、デザインにおけるデータサイエンスの活用法について学び、今後のデザインの場面において幅広く活用していける知識、技能を獲得していく。		
授業概要	ビジュアルとデータサイエンスとは一見、何ら関係ないように見える。しかし、デザインに関わる様々なものを紐解くとデータサイエンスを知り、デザインを分析することで、デザインの新たな極地を知ることにも繋がりが得る。 本授業では、伝わるデザイン、伝えるデザインをテーマにデータサイエンスに基づいた新たなデザインーSociety5.0デザインについて学習する。 【SDGs：4】		
授業計画	① オリエンテーション 授業概要と進行に関わる説明 ② 調査計画 ③ 調査準備 ④ 分析にあたって ⑤ 調査回収 結果入力 ⑥ 調査分析 ⑦ 調査発表 ⑧ 次の調査に備えて 第1回の調査経緯の振り返り ⑨ 第2回調査計画 ⑩ 第2回調査準備 ⑪ 分析にあたって ⑫ 第2回調査回収 結果入力 ⑬ 第2回調査分析 ⑭ 第2回調査発表 ⑮ まとめ ⑯		
予復習等	授業内で様々提示する課題（主に次回授業にあたっての時間外学習）を概ね各回とも2時間程度必要とする		
評価方法	調査分析及び発表（40×2＝80％）特に第2回目の調査においては履修生の数を見てグループワークを取り入れることも視野に在れる。その場合は協調度、務める役割なども評価対象とする。授業の参加度 20％		
履修条件	1年次データサイエンス概論、情報統計処理の単位が認定されていること		
教科書	なし		
参考書			

科 目 名	コミュニケーションデザイン論Ⅱ Theory of Communication Design Ⅱ	単 位 数	2
		必選区分	VD選択
開講学科	デザイン環境学科（2年前期）[岐阜学関連科目]	科目区分	講義
担 当 者	奥村 和則	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	学生がヴィジュアル・コミュニケーションを含めたコミュニケーション全体（＝意思／感情／思考の伝達）について理解を深めることを目的とする。特にリサーチ、プランニング、プレゼンテーションの各過程におけるスキル向上に重点をおいた授業計画を設定し、総合的コミュニケーションデザイン能力の向上を目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィック／編集デザイン業務の従事経験あり】 本講義では、効果的な情報収集からその伝達・表現方法を重視し、デザイン展開を行う。特に、ヴィジュアルプレゼンテーションを戦略的に取り組むため、コピーとイメージの作成方法から、取材や調査を伴う客観的事実の論述まで、訴求力を高められるように展開していく。また、前半のプランニングはグループワークにて実施し、コミュニケーションについての再定義をプレストにて行い、後半は競合的発表を模して実施する等、実践的なプロモーションを意識し、総合的コミュニケーションデザイン能力の習得へと繋げる。 【SDGs：4, 8, 9, 12】 【岐阜学関連の授業回：⑩-⑮】		
授業計画	① イントロダクション ② コミュニケーションの定義 ③ コミュニケーションの提案（１）－テーマ設定 ④ コミュニケーションの提案（２）－コンセプト ⑤ コミュニケーションツールの設計（１）－マスター ⑥ コミュニケーションツールの設計（２）－各エレメント ⑦ コミュニケーションツールの設計（３）－スライド ⑧ コミュニケーションツールの設計（４）－プレゼンテキスト ⑨ 成果発表　～プレゼンテーション～ ⑩ 情報収集と戦略的PR（１）－テーマ設定 ⑪ 情報収集と戦略的PR（２）－情報収集 ⑫ 情報収集と戦略的PR（３）－特徴抽出 ⑬ 情報収集と戦略的PR（４）－情報交換 ⑭ 情報収集と戦略的PR（５）－スライド制作 ⑮ 情報収集と戦略的PR（６）－プレゼン準備 ⑯ 成果発表　～プレゼンテーション～		
予復習等	【予習】情報伝達方法および技術について、事前に調査を行っておくこと 【復習】提示された課題に取り組み、各週エスキースにて進捗を報告すること		
評価方法	出席状況・受講態度３０％、提出作品・プレゼンテーションによる評価７０％		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	授業内で紹介する		

科 目 名	DTP演習 DTP Method	単 位 数	2
		必選区分	VD選択
開講学科	デザイン環境学科（2年前期）	科目区分	演習
担 当 者	奥村 和則	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	学生がDTPに必要なアプリケーションを使って書籍などの台制・設計や誌面デザインを行い、作品制作・編集することにより、DTPに要する知識と技術の習得を目的とする。デジタルデザイン系の制作に必要なアプリケーションについて「CG演習」に引き続き学び、より実践的な課題に取り組む。到達目標は、既存印刷物と同程度の成果物が作成できるようにすることである。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィック／編集デザイン業務の従事経験あり】 Adobe社によるPostscriptの開発や、WYSIWYG（モニター画面と同じものが印刷される）技術が確立され、印刷技術のデジタル化が始まった。現在ではグラフィック系、画像編集系、レイアウト系の三つを用いたDTP（Desk Top Publishing）が印刷の主流である。 本講義では、台制を要する印刷作品を、コンピュータ上にて制作・編集することにより、DTPの知識と技術を習得する。 【SDGs：4, 8, 9, 12】 【岐阜学関連の授業回：⑦, ⑧】		
授業計画	① イントロダクション ② レイアウト・文字組について ③ 折りを用いたリーフレットの制作（１）－ラフカンパ ④ 折りを用いたリーフレットの制作（２）－要素配置 ⑤ 折りを用いたリーフレットの制作（３）－調整 ⑥ 成果発表　～プレゼンテーション～ ⑦ 二色印刷・特色印刷について ⑧ 二色印刷・特色印刷によるフライヤー制作 ⑨ 成果発表　～プレゼンテーション～ ⑩ InDesign の基本操作（１） ⑪ InDesign の基本操作（２） ⑫ InDesign によるレイアウト編集 ⑬ 書籍の設計・制作（１）－マスター制作 ⑭ 書籍の設計・制作（２）－ページデザイン・編集 ⑮ 書籍の設計・制作（３）－エレメントデザイン ⑯ 書籍の設計・制作（４）－印刷・製本		
予復習等	【予習】既存の印刷物を観察し、表現の再現方法や代替方法を調査しておくこと 【復習】提示された課題に取り組み、各週エスキースにて進捗を報告すること		
評価方法	出席状況・受講態度３０％、提出作品・プレゼンテーションによる評価７０％		
履修条件	「CG演習」の単位を取得していること		
教科書	なし		
参考書	授業内で紹介する		

科 目 名	Webデザイン Web Design	単 位 数	2
		必選区分	VD選択
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）	科目区分	演習
担 当 者	井口 仁長	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	HTMLとスタイルシート（CSS）の記述方法が理解できること、利用者を導くグラフィックスの作成や直感的で使いやすいユーザインタフェースの設計ができること、自分が思い描くページ（独自性を持つページ）が作成できることを目的とし、ウェブページやウェブサイトをデザインするための基本となる技術や知識の習得を到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公共施設や企業のウェブサイトを作成した経験あり。】 ウェブページ、あるいはウェブサイトのデザインでは、利用者が容易に情報を得ることができるように情報を整理・構築すること、見た目にも美しく、かつ心地の良い体験を与えることの両方が求められます。また、HTMLやCSS等のマークアップ言語を使ってページを作るとは、絵筆を使って作ることと根本的に異なるため、記述言語に慣れていないと理解しづらいかも知れません。基本的には授業計画に沿って進めますが、他の科目と比べて知識や技術の差が大きく表れるため、個々の理解度に応じて個別に指導します。 【SDGs：9, 12, 17】		
授業計画	① ウェブデザインについて ② ウェブページの模写(1) グラフィックの作成 ③ ウェブページの模写(2) コーディング（HTML） ④ ウェブページの模写(3) コーディング（CSS） ⑤ ブランニング(1) コンセプトメイキング ⑥ ブランニング(2) 情報収集 ⑦ ブランニング(3) アイディアスケッチ ⑧ ウェブサイト制作(1) プロトタイプの作成 ⑨ ウェブサイト制作(2) 素材の作成 ⑩ ウェブサイト制作(3) コーディング（HTML） ⑪ ウェブサイト制作(4) コーディング（HTML） ⑫ ウェブサイト制作(5) コーディング（CSS） ⑬ ウェブサイト制作(6) コーディング（CSS） ⑭ ウェブサイト制作(7) 中間チェック ⑮ ウェブサイト制作(8) 修正 ⑯ ウェブサイト制作(9) 発表		
予復習等	【予習】HTMLとCSSの記述方法をおさらいしておくこと。たくさんウェブサイトを見ること。 【復習】授業項目は連続しているため、前回までの授業で行ったことを理解しておくこと。		
評価方法	提出物８０％、発表・プレゼンテーション１０％、出席状況・受講態度１０％		
履修条件	「情報デザイン論」の単位を取得していることが望ましい。		
教 科 書	なし。授業ごとにウェブページを配信、または資料を配布する。		
参 考 書	授業内に適時紹介する。		

科 目 名	パッケージデザイン Package Design	単 位 数	2
		必選区分	VD選択
開講学科	デザイン環境学科（２年前期）	科目区分	演習
担 当 者	折戸 加奈子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	パッケージは商品の品質を保つための保護や実用面はもとより、店頭に陳列された際の商品の見え方や、情緒性、機能性にも働きかける事を理解し、パッケージ制作を通じてブランディング力を身につけます。		
授業概要	【担当者の実務経験:デザイン事務所経営でコンセプトデザイン業務に従事。また、県、市等での審査員、岐阜県広報誌アドバイザーや有識者としての審査業務多数経験。】 パッケージは内容物を保護するための包装に留まらず、店頭での販売促進活動のツールとしての役割があります。売れるデザイン、買いたくなるデザイン、制約の中で収まるデザイン、社会に貢献するデザインなどパッケージデザインには他の媒体デザインとは大きく異なる要素が含まれています。パッケージデザインの本質を、演習や学区外研修を通じて学びます。 【SDGs：. 4. 8. 9. 12. 13. 14. 15. 16. 17】		
授業計画	① ①授業概要ガイダンス・自己紹介 ②パッケージの歴史【④～⑮】 ② パッケージの基本を知る（プレゼンテーション1）【④～⑮】 ③ パッケージの役割・理論を知る 【④～⑮】 ④ ①地域お土産パッケージの現状と考察②学外調査に向けてのガイダンスとグループセッション ⑤ 学外（※曜日変更の可能性あり）パッケージデザイン学外調査（調査用紙に基づき）【④～⑮】 ⑥ ①パッケージ市場調査発表 ②デザインとブランディング-1【④～⑮】 ⑦ デザインとブランディング-2（自分ブランド、ブランドロゴを作る2）【④～⑮】 ⑧ 演習1 ブランドロゴ制作（制作・個別チェック）Illustrator【④～⑮】 ⑨ 演習2 パッケージ制作の概要・制作（制作・個別チェック）Illustrator【④～⑮】 ⑩ 演習3 パッケージ制作（制作・個別チェック）Illustrator【④～⑮】 ⑪ 演習4 パッケージ制作（制作・個別チェック）Illustrator【④～⑮】 ⑫ 演習5 パッケージ制作（制作・個別チェック）Illustrator【④～⑮】 ⑬ 演習6 パッケージ制作（制作・個別チェック）Illustrator【④～⑮】 ⑭ 学外 搬入（※曜日変更の可能性あり） ⑮ 学外 プレゼンテーション 搬出（※曜日変更の可能性あり） ⑯ 学内プレゼンテーション2とアドバイス 講評まとめ		
予復習等	市場におけるパッケージの既存製品観察や図書館での資料収集を日頃から行うこと。		
評価方法	出席状況80％・提出物25％・プレゼンテーション5％		
履修条件	Adobe Illustrator及びPhotoshopが完全に使えること。課題制作に必要な材料及び用具の購入が必須。 学外授業を出席必須。 尚且つ移動に関して実費が必須。（時間内に現場に入るためにタクシー代必須の場合あり ※以上のことが納得できる事		
教 科 書	使用しない		
参 考 書	『ペーパーパッケージデザインの教科書』日経BP社、『売れるパッケージデザイン』日経BP社、ほか資料として所用		

科 目 名	デジタルファブリケーション演習 Digital Fabrication	単 位 数	2
		必選区分	VD選択
開講学科	デザイン環境学科（２年後期）[岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担 当 者	奥村 和則	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	学生が自身のアイデアを具体化する方法として、素材やデジタルファブリケーター等の選択を行い、実現する能力を養うことを目的とする。デジタルファブリケーターには、3Dプリンタ、レーザーカッター、デジタルミシン、カッティングマシン等があるが、本講義はレーザーカッターとカッティングマシンを前提とし、そのデータ作成方法から、出力後の作品の検証を行い、デザインにフィードバックするというサイクルまでを行う。これらを通してデジタルファブリケーションの概要を理解し、それに関わる知識・技術を習得することが到達目標である。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてデザイン業務の従事経験あり】 本講義では、デジタルファブリケーションでの出力を前提に、展開図や各部位をベクターデータ（Illustrator）にて作成する。作図/フィードバック時に（基礎的な）数的アプローチを生じるため、論理的に最適解を模索し続ける能力が必要である。 また、アイデアが３次元（可動であれば４次元）で具現化する能力を習得することにより、制作/表現の領域が拡張でき、他の演習科目や卒業後の専門職などでその応用が可能となる。 【SDGs：4, 8, 9, 12】 【岐阜学関連の授業回：①, ②, ⑬】		
授業計画	① イントロダクション ② プロダクトアイデア（１）－アイデアスケッチ ③ プロダクトアイデア（２）－ペーパーモック ④ カッティングマシンでの制作（１）－ベクターデータ編集 ⑤ カッティングマシンでの制作（２）－試作 ⑥ カッティングマシンでの制作（３）－フィードバック ⑦ カッティングマシンでの制作（４）－プレゼンボード ⑧ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑨ レーザーカッターでの制作（１）－アイデアスケッチ ⑩ レーザーカッターでの制作（２）－ベクターデータ編集 ⑪ レーザーカッターでの制作（３）－試作 ⑫ レーザーカッターでの制作（４）－フィードバック ⑬ 他ファブリケータとの連携 －特殊加工・特殊印刷 ⑭ 統合的なデータ編集（１）－プレゼンスライド ⑮ 統合的なデータ編集（２）－プレゼンボード ⑯ 成果発表 ～プレゼンテーション～		
予復習等	【予習】デジタルファブリケーションに関する作品や表現手法を調査しておくこと 【復習】提示された課題に取り組み、各週エスキースにて進捗を報告すること		
評価方法	出席状況・受講態度３０％、提出作品・プレゼンテーションによる評価７０％		
履修条件	「発想トレーニング」「ＣＧ演習」の単位を取得していることが望ましい 学外のファブリケーターを使用する際は料金が発生する（別途案内）		
教 科 書	なし		
参 考 書	授業内で紹介する		

科 目 名	地域実践演習（卒業研究） [デザイン環境] Seminar on Regional Activities (Graduation Thesis / Works)	単 位 数	4
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（２年全期）	科目区分	演習
担 当 者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	２年間の集大成として、これまで学んできた知識・技能をもとに、社会的背景や既往の研究と関連付けて世の中の問題点や興味・関心事を取り上げ主体的に研究テーマを設定し、解決・提案できる能力を習得することを目的とする。全期にわたって計画的に研究・制作を遂行し、論理的に展開するとともにプレゼンテーション能力を会得する。		
授業概要	【担当者の実務経験：２、４～６、８の研究室は実務経験のある講師が担当】 デザイン環境学科で習得する知識、技術を生かして、総合的に研究、制作に取り組む。 １年次、１２月に開催される２年生の卒業研究発表会・展示会で、研究発表や制作作品を聴講または見学し、１月に研究室の希望調査書を提出する。研究室ごとの人数を調整後、配属する研究室を決定する。所属する領域以外の研究室を選択することも可能である。１年次全期の科目の成績で配属先を調整することがある。 ２年次進級後、各自の配属研究室で、担当教員と相談の上研究テーマを設定し、年間を通じて研究活動、制作活動を行う。 【SDGs：1, 9, 11, 12, 17】 【岐阜学関連の授業回： 研究室によって異なる】		
授業計画	①（１）研究テーマの設定、活動計画立案 ②（２）中間発表会（夏季休業中に開催） ③（３）卒業研究発表会（口頭発表・ショー発表、作品展示） ④（４）記録集の写真撮影と、要旨集の提出（研究室によっては論文集を作成する） ⑤ 研究室 ⑥ １．ファッション造形・デザイン研究室 ⑦ ２．材料学研究室 ⑧ ３．ファッションクリエイト研究室 ⑨ ４．建築・環境デザイン研究室 ⑩ ５．建築・地域デザイン研究室 ⑪ ６．建築構造・材料研究室 ⑫ ７．インテリアデザイン研究室 ⑬ ８．グラフィックデザイン研究室 ⑭ ９．メディアデザイン研究室 ⑮ １０．情報デザイン研究室 ⑯		
予復習等	【予習】担当教員の指導による。 【復習】担当教員の指導による。		
評価方法	研究、制作過程や成果を判定し、担当教員が決定する。		
履修条件	１２月の卒業研究発表会・展示会を必ず聴講・見学すること。		
教 科 書	担当教員による。		
参 考 書	担当教員による。		

科 目 名	インターンシップ Internship	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	デザイン環境学科（1・2年全期）	科目区分	集中
担 当 者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	企業や役所等、社会で実務を体験することによって職業意識を高めるとともに、企業・職種とのマッチングを見極める機会とする。さらに、企業研修をとおして、学ぶことの意味を問い直し、学習意欲の向上に結びつける。		
授業概要	それぞれの専門分野に応じた企業、または将来の職業に関連した企業で、一定期間企業研修を受ける。長期休暇を利用した研修が望ましい。 【SDGs：8】		
授業計画	インターンシップ申し込みから実施までの流れ 1. 担任が4月のガイダンスで、概要を説明する。 2. 研修を希望する学生は、研修希望の企業を、担任をとおして進路支援委員の教員に伝える。 3. 学生は、インターンシップ登録カードを担当に提出する。 4. 進路支援委員は、受け入れ企業との調整を行う。 5. 企業研修（1週間） 6. 研修終了後、研修日誌を担当へ提出する。 7. 進路支援委員、教務委員は、担任に提出された研修日誌、受け入れ企業担当者の評価をもとに、成績判定、単位認定を行う。		
予復習等	【予習】研修先企業・事業所について研究する。 【復習】研修内容について日誌記入を通して確認を行い、翌日の研修に備えて課題を進める。		
評価方法	研修日誌（60％）、受け入れ企業担当者の評価（40％）を総合して評価する。		
履修条件	1日8時間、実質2.5日間の研修を体験し、研修日誌を提出する。		
教科書			
参考書			

科 目 名	異文化理解と社会の変化 Intercultural Understanding and Social Shift	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担 当 者	松浦 康之・長谷川 旭・神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	異文化とは国際だけではなく、文化や言語、地域差といった様々な背景の違いを指している。生成AI（人工知能）など時代の変化が激しい現代において、社会も多様化・複雑化している。そのため、異文化を学んだり、視野を広げたり、他者の視点に立脚して考えることは重要となる。そこで、本講義では、文化や価値観の違いに触れながら、これからの時代に必要とされる人材やグローバリゼーションについて考えていく。これによって、視野を広げることと異文化に対する理解を持つことを目標とする。		
授業概要	現代社会において、全員が同じ発想と内容を持つことは様々な変化に対する脆弱性が高くなると言える。また、これからの時代、従来の延長線や一つの専門領域だけで、社会課題の解決や新しい価値の創造は困難であるとも言える。本講義では、多様な価値を理解し、多様な対応ができることを目指している。そのため、本講義では知識を学ぶだけではなく、共に考えたり、経験をすることによって、様々な背景や価値観を持つ重要性や多面的な視野を養う。また、実例なども取り上げながら、多様性の理解やその必要性について学ぶ。本講義はグローバル人材海外演習の予習の要素も含むが、内容は独立しており、グローバル人材海外演習に参加しない学生も履修可能である。なお、本講義は集中講義（不定期開講・オムニバス）であるため、授業計画であげた項目の順序や内容の一部が変更になる場合もある。 【SDGs：4, 9, 17】		
授業計画	① ガイダンス・異文化理解とは ② タイの基礎知識 ③ 日本との違いや難しさ ④ 時代や社会の変化を改めて知る ⑤ 異文化理解を考える（1）事例紹介 ⑥ 異文化理解を考える（2）プレゼン ⑦ 異文化理解を考える（3）まとめ ⑧ これからの人材に求められるものとは		
予復習等	【予習】ニュースに関心を持ち、未知のキーワードや内容を調べる。 【復習】講義で取り扱った話題について自分で調べ、質疑応答や発表の準備をする。		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	なし。ただし、1年前期に開講される「グローバリゼーション論」（国際コミュニケーション学科、他学科専門科目）を受講していることが望ましい。		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じてプリントを配布する。		

科 目 名	グローバル人材海外演習 Global Human Resource Overseas Training	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	演習
担 当 者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	これからの時代は、欧米中心の異文化理解ではなく、アジアやアフリカなどを含めた地球規模での異文化理解が必要になってくる。一方で、価値観も日本とは異なる面もあるため、想定外のことも多々生じる。そのため、「想定外のことが起こる」と言う柔軟性も身につける必要がある。そこで、本演習では、各自が設定したテーマを主軸にしながら、風土や民族、社会状況など、日本とは異なる文化や価値観に接するとともに、文化や習慣が異なる現地の学生と活動し、日本から世界を、世界から日本を捉える視野を持つ素地を作るとともに、これからのグローバル社会に対応できる柔軟性を養うことを目的とする。		
授業概要	春季休業中に、約2週間タイでの海外演習を行う。使用言語は、基本的には日本語（タイ人講師の講義など、一部英語の可能性あり）。海外演習では、事前に決めた各自のテーマに沿った簡単な調査を行う。事前研修では、各自の海外演習中のテーマの検討や、事前調査を行う。詳細については、オリエンテーションで説明する。 海外演習は、岐阜に本社を置く日系企業を中心に、現地での勤務状況や必要とされる能力について話を聞いたり、工場見学や文化施設（世界遺産や博物館など）の見学を行ったり、タイの文化（伝統文化、食文化、芸術など）や歴史を学ぶ予定である。また、現地を散策し、各自のテーマに沿って調べた内容を日本語でまとめ、提出する。 【SDGs：4, 8, 10, 17】		
授業計画	① 出発前に、オリエンテーションおよび、事前研修を行う。 ② 事前：注意事項の説明や各自の海外演習中のテーマの検討などを行う。 ③ 海外研修（タイ・バンコクなど） ④ 事後：課題提出		
予復習等	オリエンテーションで説明する内容を確認し、出発のための準備を怠らないこと。		
評価方法	研修での活動などへの参加態度 50%、発表 50%		
履修条件	履修条件はないが、1年後期に開講される「異文化間能力と社会の変化」（データ駆動科学教育研究センター、全学科対象）を受講していることが望ましい。		
教科書	なし。		
参考書	オリエンテーションにて指示する。		